

2018年度

大学教育の達成度調査報告書

2019年6月

教育運営委員会 学部・大学院教育部会

大学教育の達成度調査WG

調査実施方法

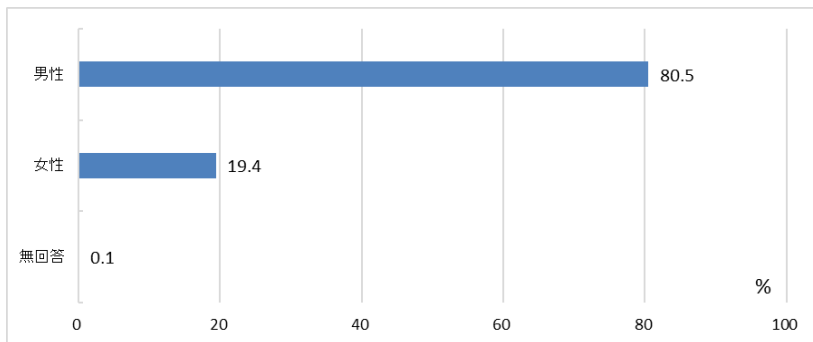
- アンケート配布時期 : 2019年3月 ※工学部のみ12月下旬に配布
- 2019年3月卒業者数 : 3,017名
- 有効回収数 : 2,632票
- 回収率 : 87.2% (回収率は、有効回収数/3月卒業者数で計算した)

※学部(各学科)において、卒業式後の書類配布時等に調査票を配布、回収した。

※グラフの個々の数字は、小数点以下を四捨五入しているため、数字を合計して100%にならない場合がある。

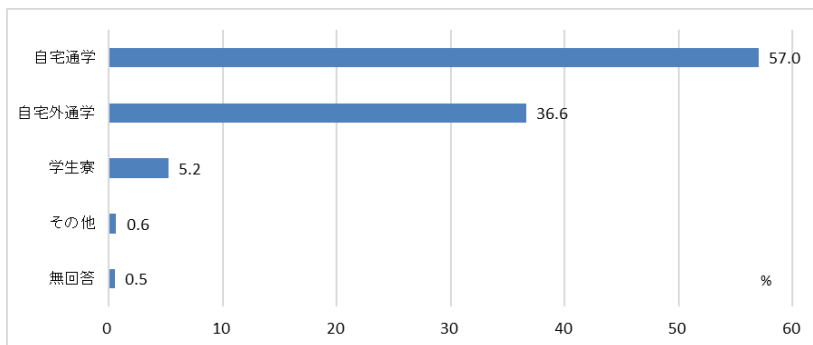
I. 回答者の特性

Q5. 性別



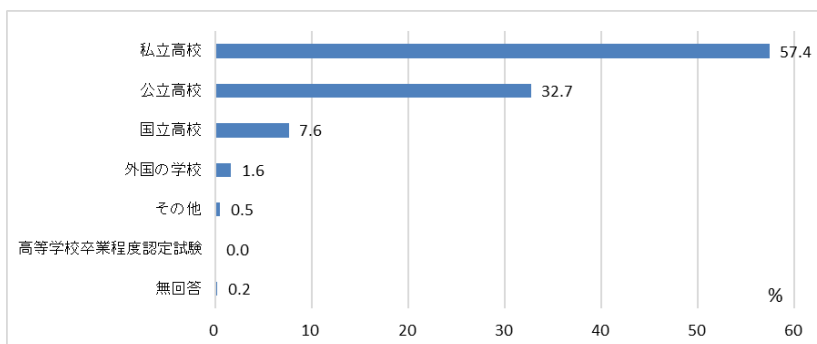
回答者のうち、男性が8割(80.5%)、女性が2割(19.4%)、無回答0.1%となっている。

Q6. 通学



回答者のうち、自宅通学はおよそ半数の57.0%、自宅外通学は36.6%で、学生寮は5.2%となっている。

Q7. 出身高校等



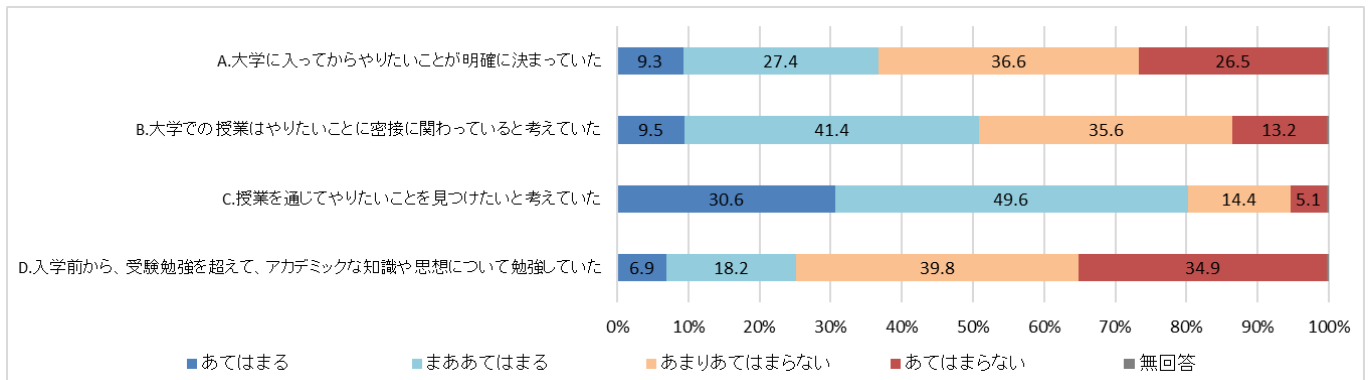
回答者のうち、過半数(57.4%)は私立高校出身で、次いで公立高校が約3分の1(32.7%)、国立高校が1割弱(7.6%)となっている。また、外国の学校は1.6%となっている。

Ⅱ. 在学時の経験

Ⅱ-1. 入学時の様子

- ・「やりたいことが明確」は 4 割弱
- ・「授業を通じて見附きたい」は 8 割

Q8. 入学時の様子についてお聞きします。つぎのことは、どの程度あてはまりますか。



入学時の様子について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「C. 授業を通じてやりたいことを見附きたいと考えていた」(80.2%)が最も高い割合となっている。次いで「B. 大学での授業はやりたいことに密接に関わっていると考えていた」(50.9%)が半数程度、「A. 大学に入ってからやりたいことが明確に決まっていた」(36.7%)、が 4 割弱、「D. 入学前から、受験勉強を超えて、アカデミックな知識や思想について勉強していた」(25.1%)が 4 分の 1 程度となっている。

II-2. 大学時代を通じての経験

- ・ 前期課程：「趣味やスポーツなどが充実した」は 8 割
- ・ 後期課程：「優れた友人に感化された」は 8 割
- ・ 両課程共通して、「一つのことについて没頭して取り組んだことがある」は 7 割以上

Q9. 大学時代を通じての経験を総合して、つぎのようなことはどの程度あてはまりますか。

	前期課程 (%)			後期課程 (%)		
	あてはまる	まああてはまる	合計	あてはまる	まああてはまる	合計
A. アカデミックな雰囲気の中に自分を置いた	7.8	26.7	34.5	19.8	45.6	65.4
B. 自主勉強会など自分の興味ある学習をする機会を得られた	6.5	20.0	26.5	13.3	33.0	46.3
C. 一つのことについて没頭して取り組んだことがある	38.2	32.8	71.0	43.7	36.5	80.2
D. 議論したり、ともに考えたりする友達を得られた	27.7	37.5	66.5	38.6	39.2	77.8
E. 優れた友人に感化された	38.8	37.4	67.2	47.7	35.4	83.1
F. 研究室やサークルなどのOB、OGと知り合いになれた	40.3	26.9	67.2	43.7	28.7	72.4
G. 自分の専門以外の本をよく読んだ	17.1	32.5	49.6	15.4	26.9	42.3
H. 専門書や学術雑誌をよく読んだ	7.3	19.1	26.4	18.6	36.4	55.0
I. 趣味やスポーツなどが充実した	46.7	33.2	79.9	37.1	32.3	69.4
J. 勉強したい専門がなかった	10.9	29.5	40.4	6.3	19.8	26.1
K. 前期課程では、後期課程の授業を理解するだけの能力や前提となる知識が身につかなかった	11.4	31.5	42.9			
L. 後期課程では授業についていくのに苦労した				8.1	27.6	35.7
M. 就職活動に時間をさきすぎた				3.2	9.2	12.4

前期課程における経験について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「I. 趣味やスポーツなどが充実した」(79.9%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 一つのことについて没頭して取り組んだことがある」(71.0%)、「E. 優れた友人に感化された」(67.2%)となっている。

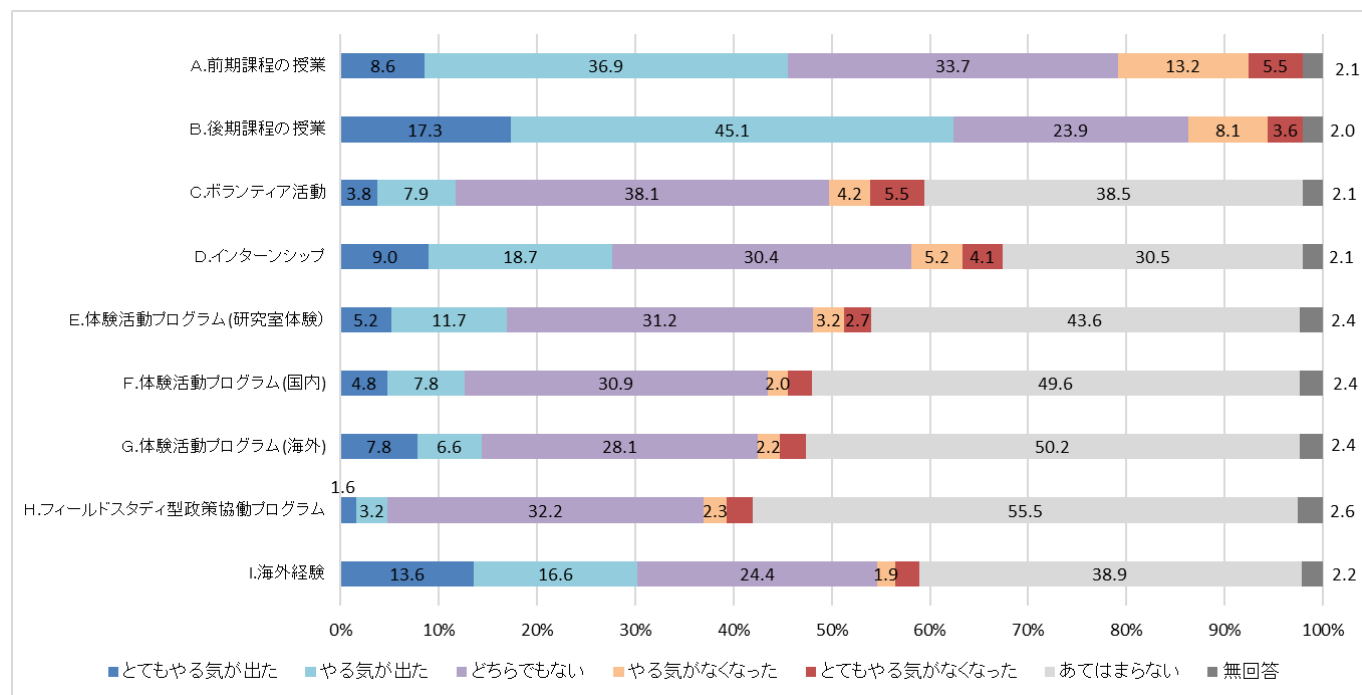
後期課程における経験について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「E. 優れた友人に感化された」(83.1%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 一つのことについて没頭して取り組んだことがある」(80.2%)、「D. 議論したり、ともに考えたりする友達を得られた」(77.8%)となっている。

前期課程・後期課程共通して、「C. 一つのことについて没頭して取り組んだことがある」が高い割合になっている。

Ⅱ-3. 勉強のやる気が出たきっかけ

- ・「前期課程の授業」は4割半、「後期課程の授業」は6割強
- ・「海外経験」は3割強、「インターンシップ」は3割弱

Q10. 大学生生活のなかでなにかがきっかけになって、勉強のやる気が出たり、なくなったことがありますか。



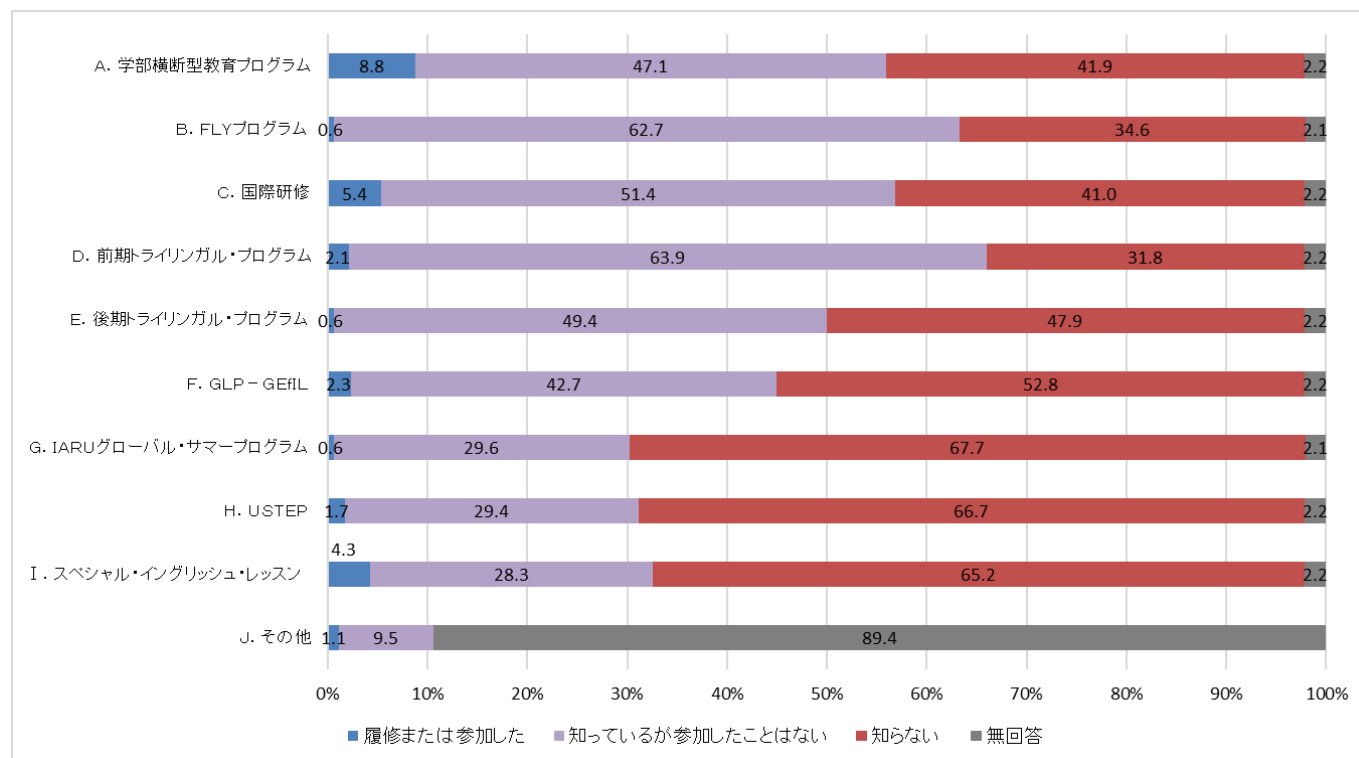
勉強のやる気が出たきっかけについて、「とてもやる気が出た」と「やる気が出た」の合計が、「A. 前期課程の授業」(45.5%)、「B. 後期課程の授業」(62.4%)となっている。

授業以外では、「とてもやる気が出た」と「やる気が出た」の合計が、「I. 海外経験」(30.2%)が最も高い割合となっている。次いで「D. インターンシップ」(27.7%)となっている。

Ⅱ-4. 大学が提供する各種プログラム

- ・ 各プログラムとも、履修または参加率は1割未満
- ・ 「前期トライリンガル・プログラム」や「FLYプログラム」は6割以上が認知

Q11. 大学が提供するプログラムの履修または参加について



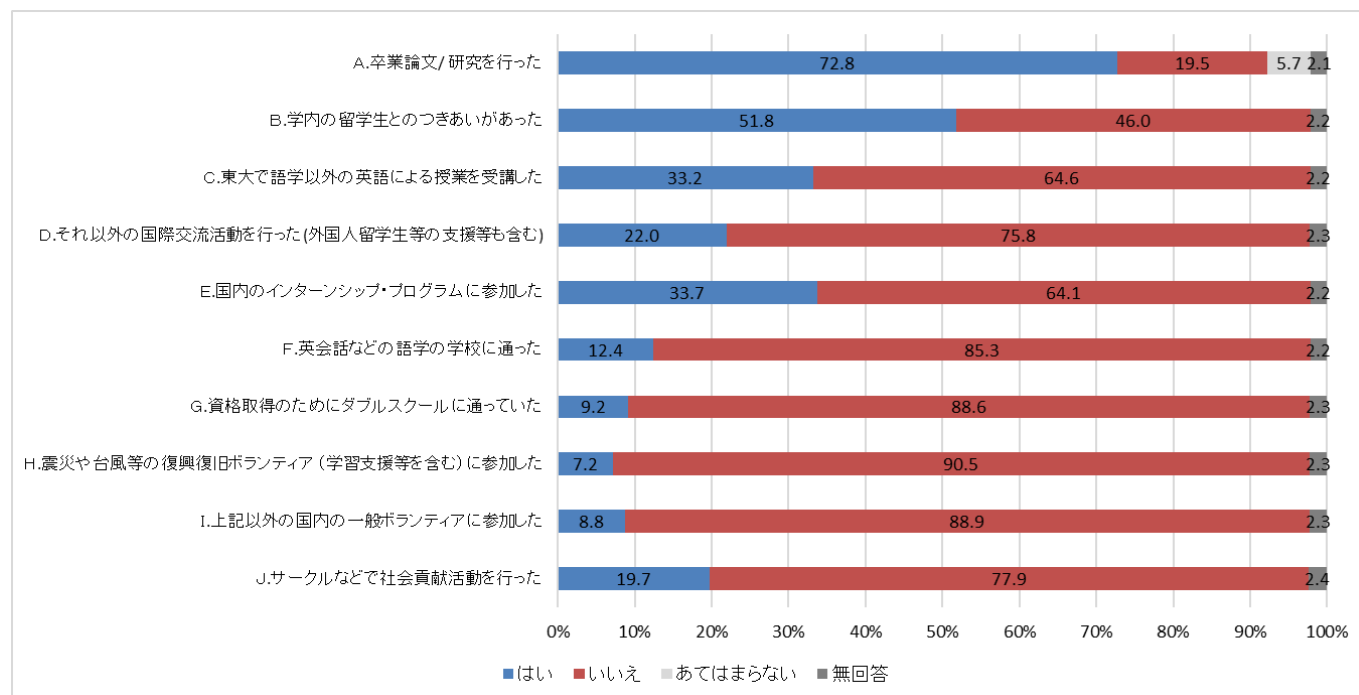
大学が提供する各種プログラムについて、「履修または参加した」の回答が、「A. 学部横断型教育プログラム」(8.8%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 国際研修」(5.4%)、「I. スペシャル・イングリッシュ・レッスン」となっている。

一方で、「履修または参加した」と「知っているが参加したことはない」の合計が、「D. 前期トライリンガル・プログラム」(66.0%)が最も高い割合となっている。次いで「B. FLYプログラム」(63.3%)、「C. 国際研修」(56.8%)となっている。

II-5. 在学時の学習機会・経験

- ・「卒業論文/研究を行った」は7割強
- ・「学内の留学生とのつきあいがあった」は5割強

Q12. 国内の在学時の学習機会・経験についてお聞きします。

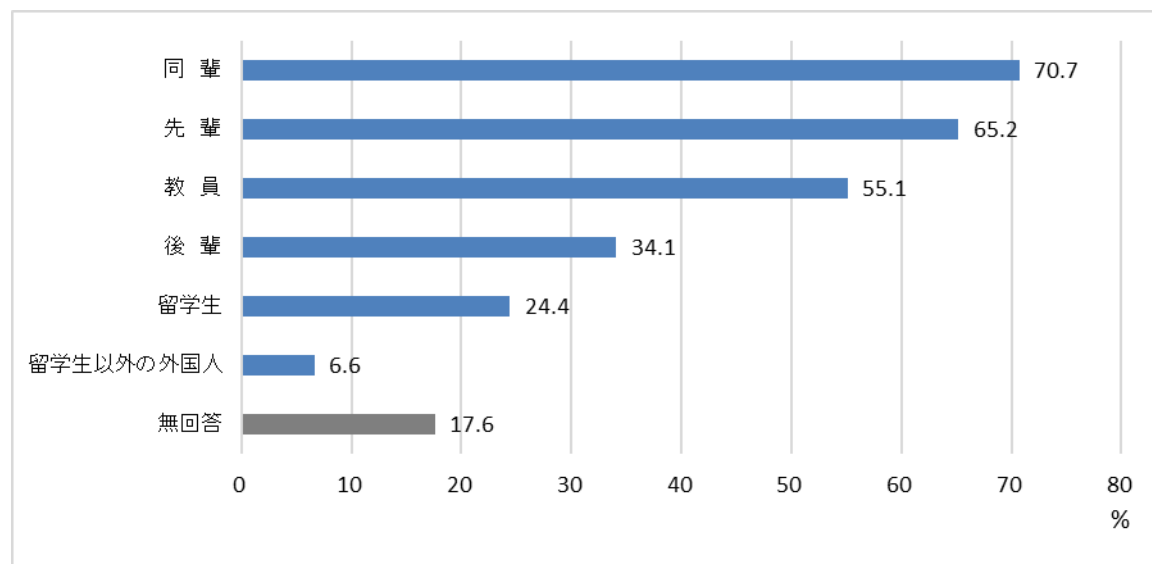


在学時の学習機会・経験について、「A. 卒業論文/研究を行った」(72.8%)の回答が最も高い割合となっている。次いで「B. 学内の留学生とのつきあいがあった」(51.8%)、「E. 国内のインターンシップ・プログラムに参加した」(33.7%)、「C. 東大で語学以外の英語による授業を受講した」(33.2%)、「D. それ以外の国際交流活動を行った(外国人留学生等の支援等も含む)」(21.4%)の順となっている。

II-6. アカデミックな交流

- ・「同輩」は7割強、「先輩」は6割半、「教員」は5割半、「後輩」は3割半
- ・「留学生と留学生以外の外国人」は3割強

Q13. あなたは授業外で、本学のつぎのような人とアカデミックな交流がありましたか。(複数回答)

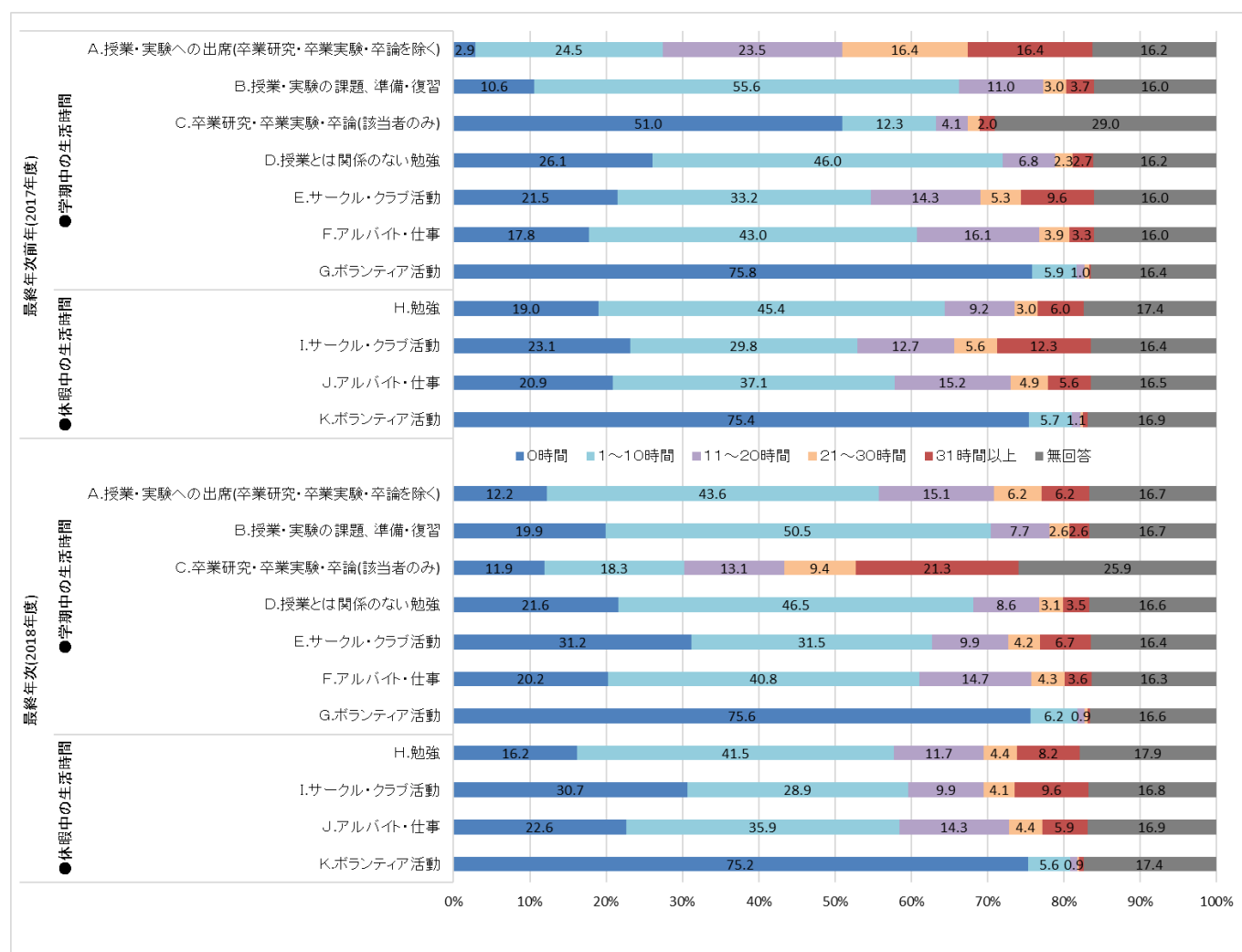


アカデミックな交流について、「同輩」(70.7%)の回答が最も高い割合となっている。次いで「先輩」(65.2%)、「教員」(55.1%)、「後輩」(34.1%)の順となっている。また、「留学生」(24.4%)と「留学生以外の外国人」(6.6%)を合わせると31.0%となる。

II-7. 生活時間

- ・ 3年次：「予習・復習」は、週に「10時間以下」が6割半
- ・ 4年次：「予習・復習」は、週に「10時間以下」が7割、「卒研・卒論」は、週に「31時間以上」が2割強
- ・ 休暇中の「勉強」は、週に「1～10時間」が4割強

Q14. 典型的な1週間（土、日を含む）の平均的な生活時間を、学期中と休暇中について伺います。



生活時間については、典型的な1週間（土、日を含む）の時間数を学期中と休暇中について、それぞれ最終年次前年（4年制では3年次に相当）と最終年次（4年制では4年次に相当）の状況をたずねた。

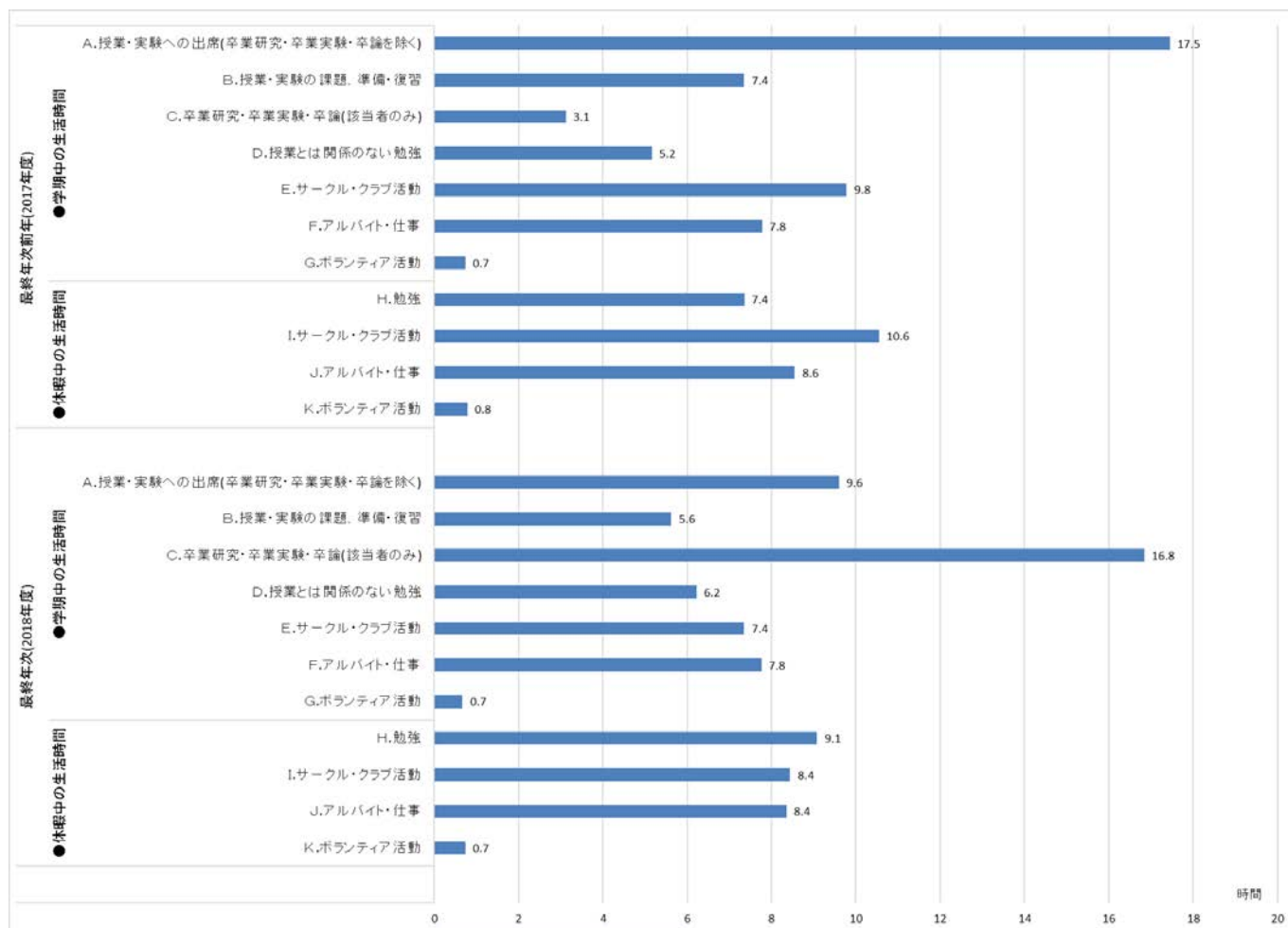
学期中の生活時間について、最終年次前年における「B. 授業・実験の課題、準備・復習」は「10時間以下」が6割半（66.2%）、最終年次では7割（70.4%）となっている。「C. 卒業研究・卒業実験・卒論（該当者のみ）」は最終年次では「31時間以上」が21.3%で、最も高い割合を占めている。また、「D. 授業とは関係のない勉強」について、「0時間」は最終年次前年では26.1%、最終年次でも21.6%となっている。

休暇中の生活時間について、最終年次前年、最終年次を問わず、「H. 勉強」は「1～10時間」が40%余りと最も比率が高く、「11～30時間」が15%前後、「31時間以上」が10%未満となる。さらに「I. サークル・クラブ活動」

は「1～10 時間」3 割弱、「J. アルバイト・仕事」は「1～10 時間」3 割半となっている。「K. ボランティア活動」について、「0 時間」の割合が 7 割半となっている。

- ・ 3年次 : 「授業」18時間、「予習復習」7時間、「卒研卒論」 3時間、「授業外の学習」5時間
- ・ 4年次 : 「授業」10時間、「予習復習」6時間、「卒研卒論」17時間、「授業外の学習」6時間

Q14. 典型的な 1 週間（土、日を含む）の平均的な生活時間を加工し、平均を算出

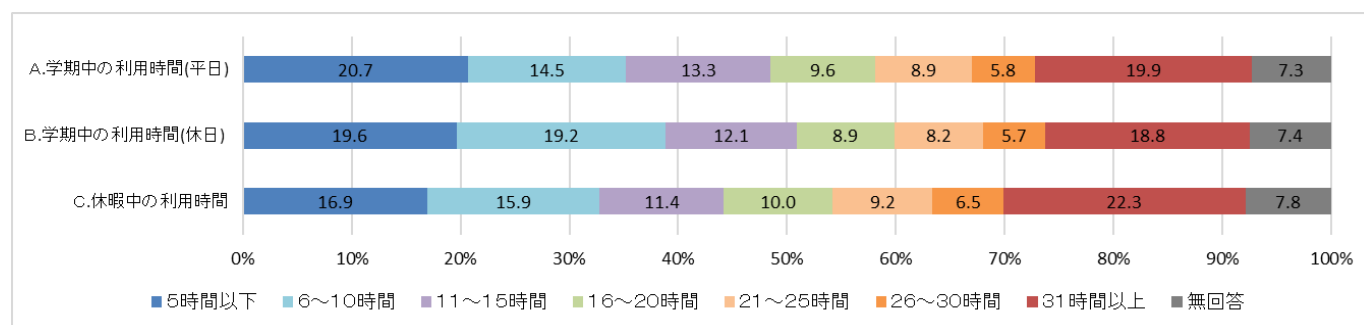


生活時間の回答のそれぞれの中位値（たとえば、「1～5 時間」で 3 時間）を取り、平均を算出した。なお、「31 時間以上」は 33 時間として算出した。学期中の時間数の平均で見ると、「A. 授業・実験への出席（卒業研究・卒業実験・卒論を除く）」は、最終年次前年で 17.5 時間、最終年次には 9.6 時間となっている。「B. 授業・実験の課題、準備・復習」は、最終年次前年で 7.4 時間、最終年次には 5.6 時間となっている。「C. 卒業研究・卒業実験・卒論（該当者のみ）」は、最終年次前年で 3.1 時間、最終年次には 16.8 時間となっている。また、「D. 授業とは関係のない勉強」については、最終年次前年で 5.2 時間、最終年次で 6.2 時間となっている。

Ⅱ-8. インターネットの利用時間

- ・ 学期中：「5時間以下」が2割前後、「26時間以上」が2割半
- ・ 休暇中：「5時間以下」が1割半強、「26時間以上」が3割弱

Q14-SQ. 上記の1週間のなかで、P.C、タブレット、スマートフォンなど、すべて合わせてインターネット（ウェブ検索、SNSなど）を利用した時間はどのくらいですか。

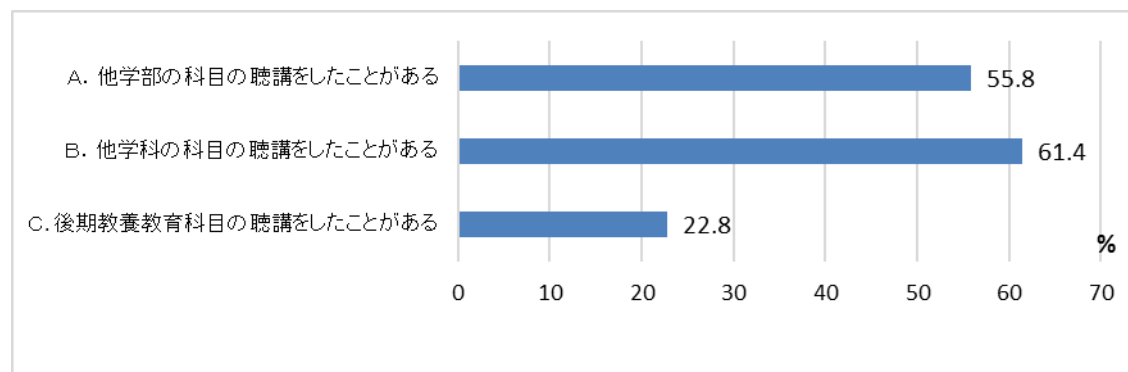


学期中と休暇中では大きな差はないが、休暇中では週に「26時間以上」の長時間利用がやや多い。「5時間以下」は学期中(平日)が20.7%、学期中(休日)が19.6%、休暇中が16.9%であるのに対して、「26時間以上」は学期中(平日)が25.7%、学期中(休日)が24.5%、休暇中が28.8%となっている。

II-9. 他学部聴講

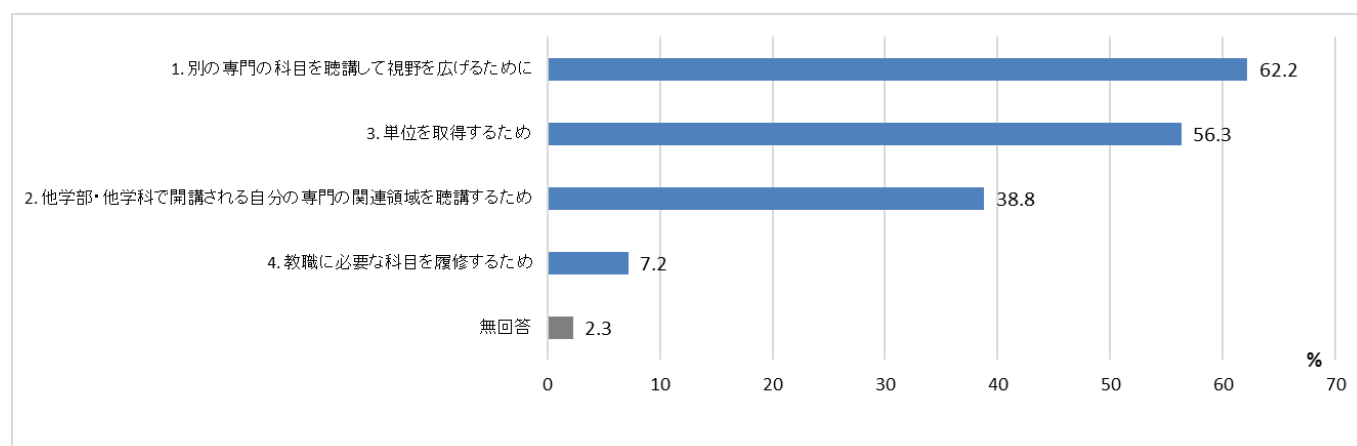
- ・「他学部聴講」、「他学科聴講」の経験者は約6割
- ・「後期教養科目」の聴講は2割強

Q15. 他学部聴講等についてお聞きします。



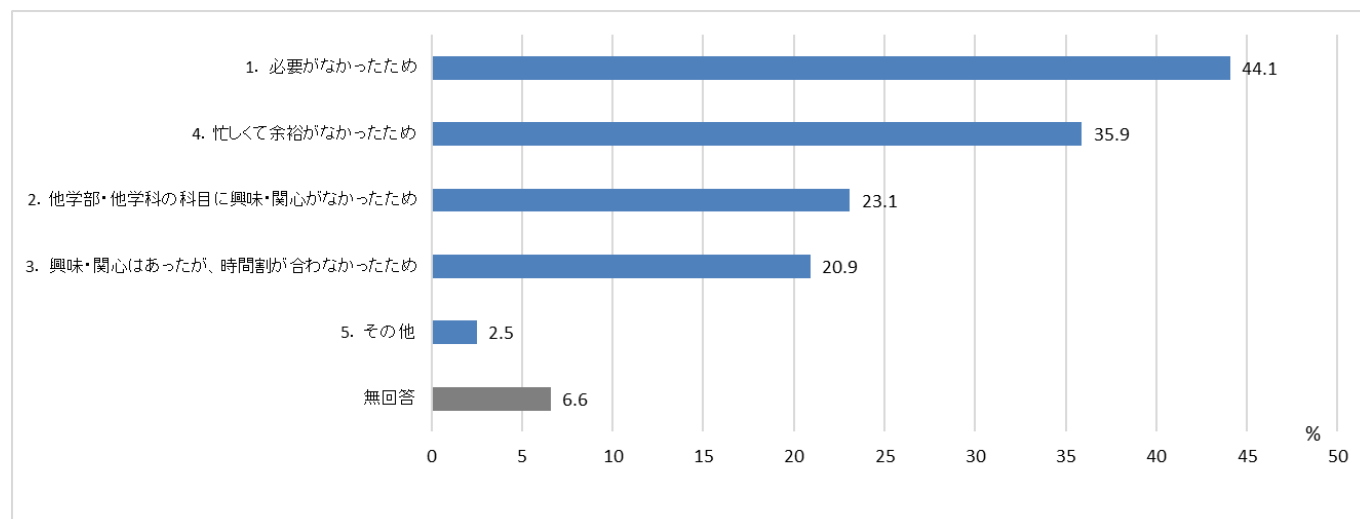
「A. 他学部の科目の聴講をしたことがある」者(55.8%)と「B. 他学科の科目の聴講をしたことがある」者(61.4%)は、6割前後となっている。「C. 後期教養科目の聴講をしたことがある」(22.8%)は2割強となっている。

Q15-SQ1. 上記A、B、Cのどれかで「はい」と答えた人にお聞きします。どういう意図で聴講しましたか。



他学部・他学科聴講や後期教養科目の受講をしたと回答した者の意図は、「1. 別の専門の科目を聴講して視野を広げるために」(62.2%)が最も高い割合となっている。次いで「3. 単位を取得するため」(56.3%)となっている。

Q15-SQ2. 上記A、B、Cのいずれも「いいえ」と答えた人にお聞きします。なぜ聴講しませんでしたか。

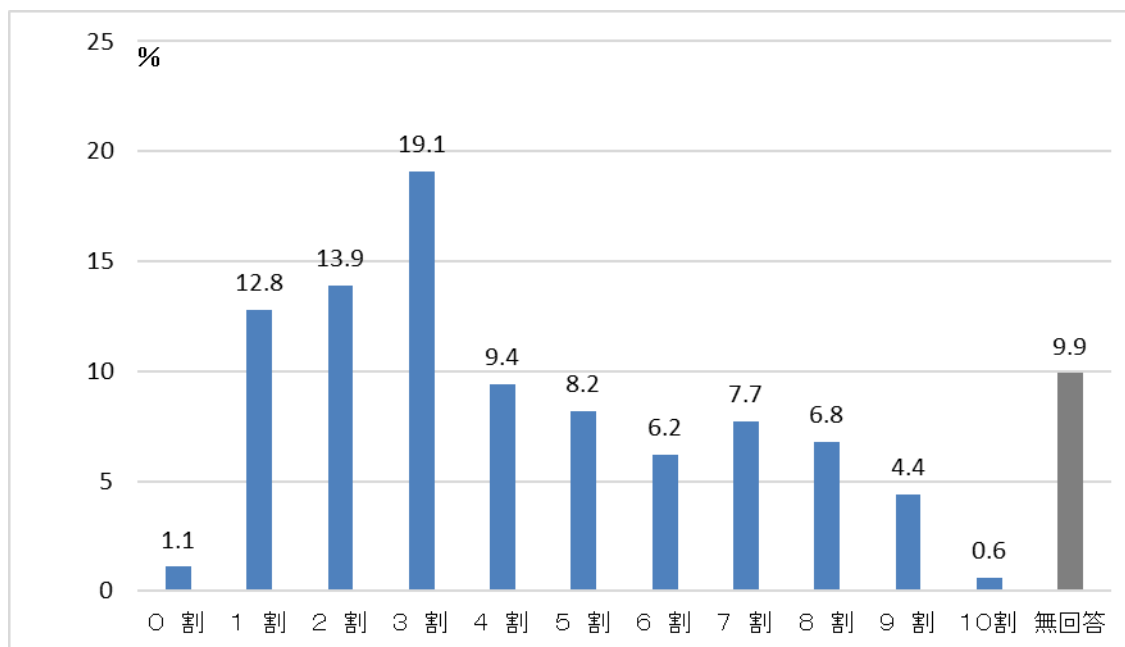


他学部・他学科聴講や後期教養科目の受講をしなかったと回答した者の理由は、「1.必要がなかったため」(44.1%)が最も高い割合となっている。次いで、「4.忙しくて余裕がなかったため」(35.9%)となっている。

Ⅱ-10. 成績

・「優の割合」は3割が最も多く、次いで2割と1割

Q16. あなたの成績についてお聞きます。「優」(A)は何割くらいありましたか。「優上」を含めた割合をお答えください。



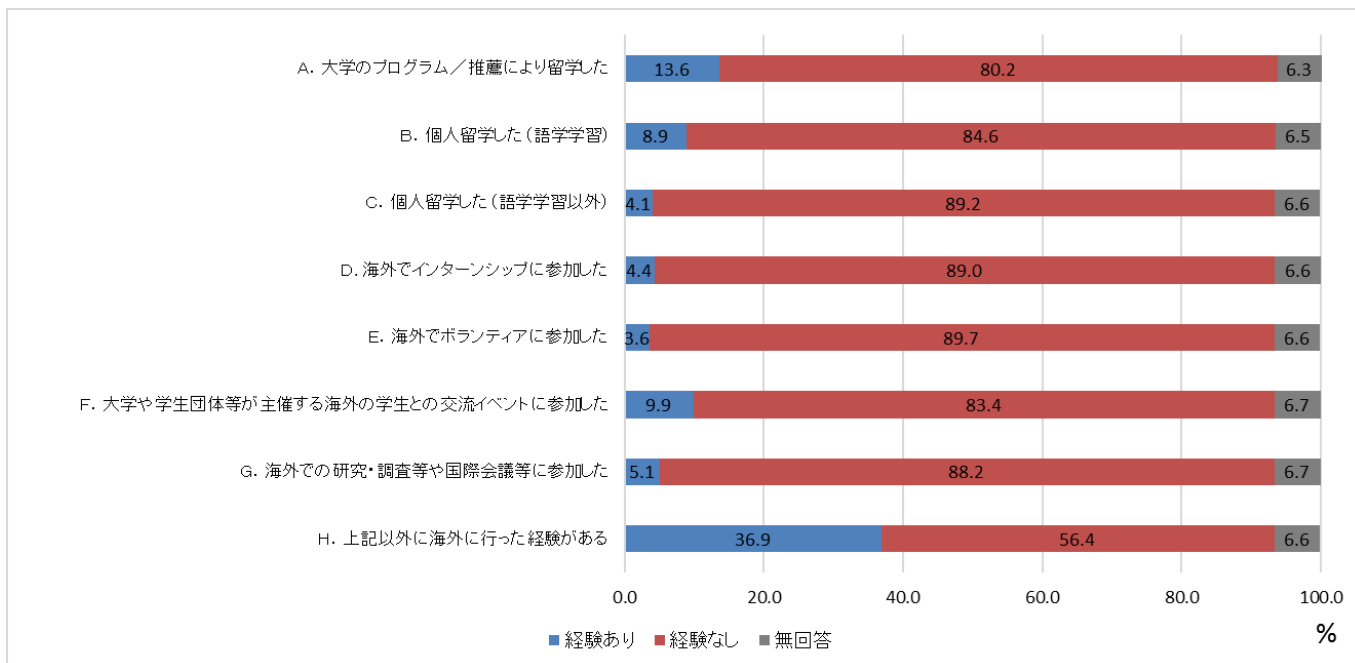
成績の自己評価について、優の割合で見ると、「3割」が19.1%と最も多く、次いで「2割」が13.9%、「1割」が12.8%となっており、対称ではなく、右に歪んだ分布になっている。

Ⅲ. 在学時の海外経験等

Ⅲ-1. 海外経験

- ・「大学のプログラムにより留学」の経験は約 1 割半
- ・「海外の学生との交流イベント」の経験は 1 割

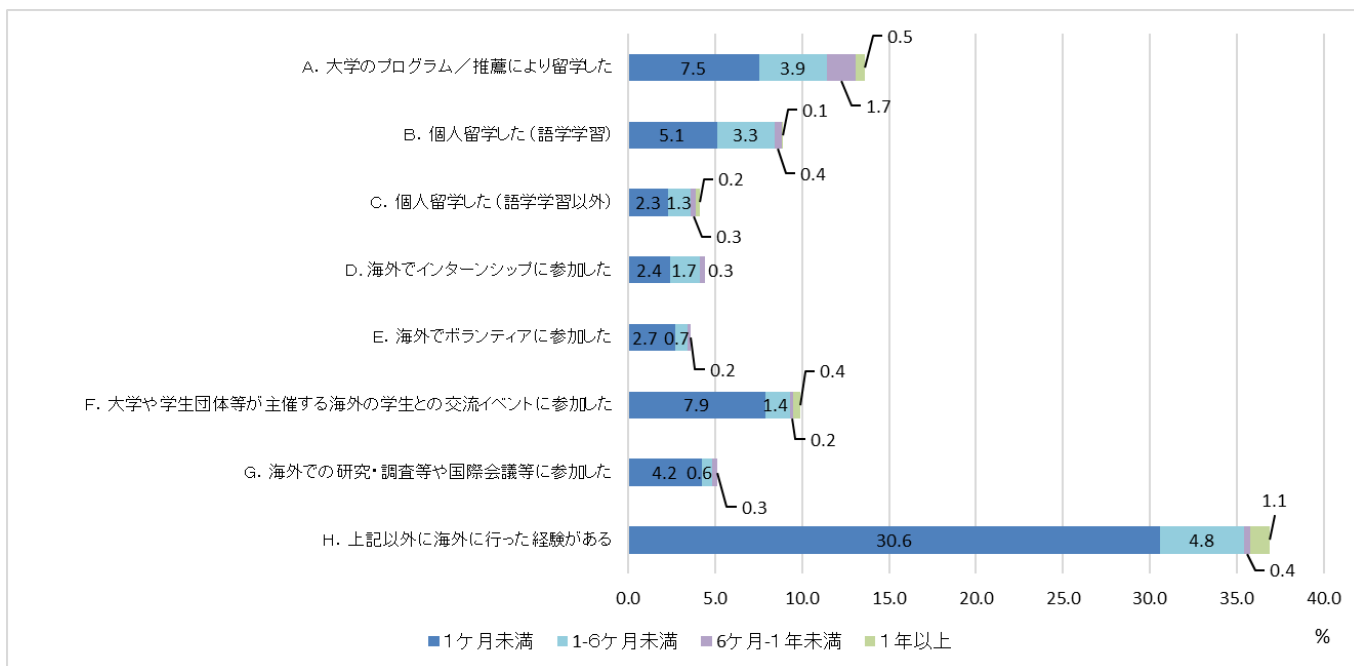
Q17. 在学時の海外経験等について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。



在学時の海外経験等について、「A. 大学のプログラム／推薦により留学した」(13.6%)の回答が最も高い割合となっている。次いで「F. 大学や学生団体等が主催する海外の学生との交流イベントに参加した」(9.9%)、「B. 個人留学した(語学学習)」(8.9%)、「G. 海外での研究・調査等や国際会議等に参加した」(5.1%)の順となっている。また、「H. 上記以外に海外に行った経験がある」(36.9%)は約 4 割弱になっている。

Ⅲ-2. 海外経験の期間

・すべての項目で1ヶ月未満が最も高い割合

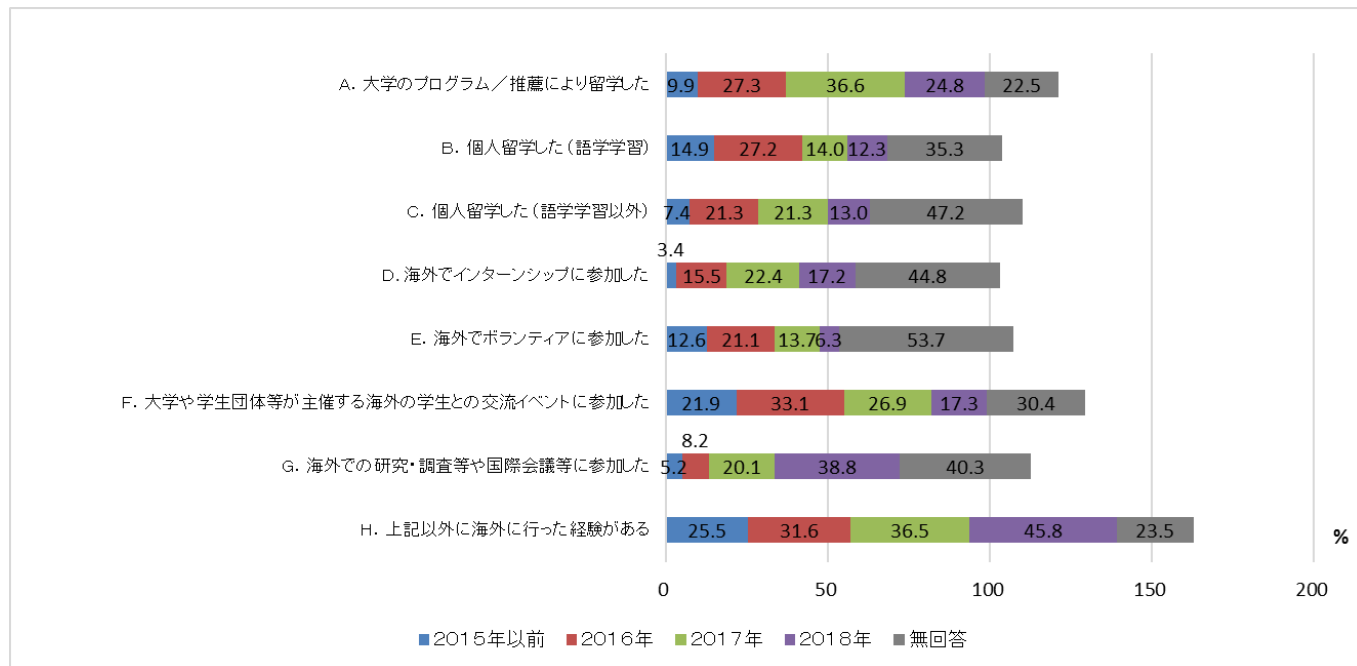


海外経験の期間について、すべての項目で1ヶ月未満が最も高い割合となっている。一方で、1ヶ月以上の期間は、「A. 大学のプログラム／推薦により留学した」(6.1%)、「B. 個人留学した(語学学習)」(3.8%)となっている。

Ⅲ-3. 海外経験の時期

- ・ 1年次：全体的に海外経験の割合が低い
- ・ 2年次：「個人留学（語学・語学以外）」、「海外ボランティア」、「交流イベント」の割合が高い
- ・ 3年次：「大学プログラム」、「個人留学（語学以外）」、「海外インターンシップ」の割合が高い
- ・ 4年次：「海外研究調査・国際会議」の割合が高い

Q17-SQ1. 前問で、A～H で1～4を選択した場合はQ17-SQ1にお答えください。複数の年度で複数回経験している場合には、それぞれの年度に○をつけてください。



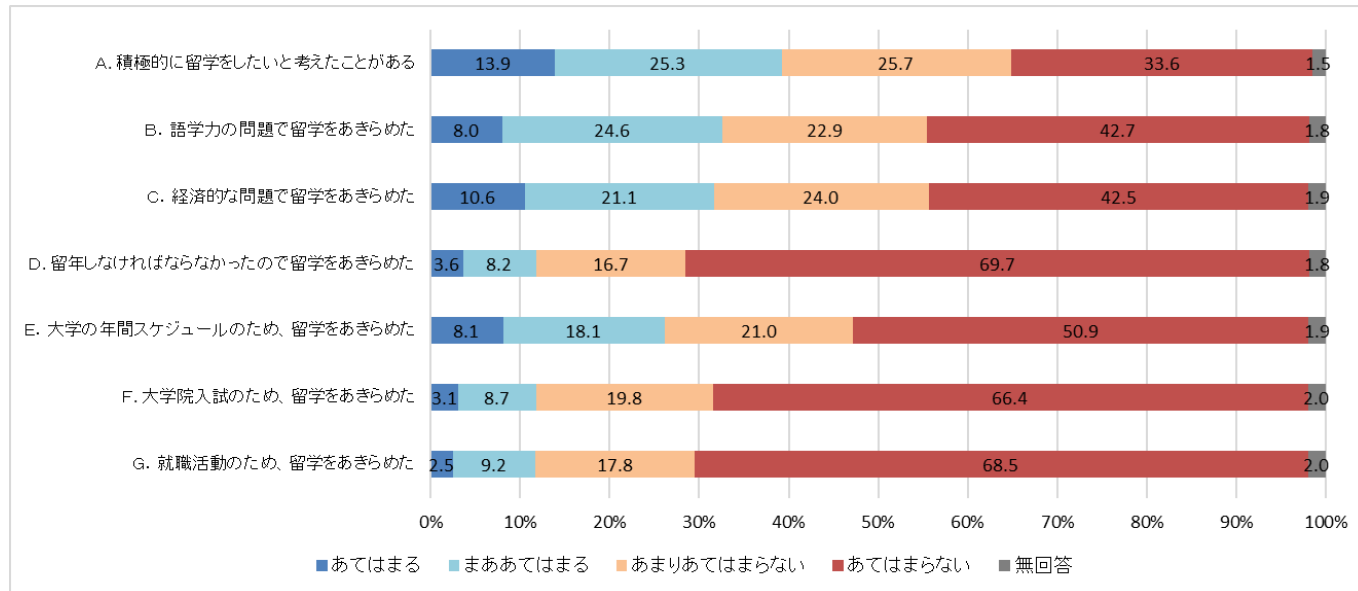
前問(Q17)の海外経験について、経験者に何年度に経験をしたかをたずねた。複数回答のため、合計は100%を超えている。プログラムにより差はあるが、全体的に、2016年度（4年制で2年次に相当）および2017年度（4年制で3年次に相当）の割合が高い。具体的には、2016年度では、「B. 個人留学した（語学学習）」、「C. 個人留学した（語学学習以外）」、「E. 海外でボランティアに参加した」、「F. 大学や学生団体等が主催する海外の学生との交流イベントに参加した」の割合が他の学年よりも高くなっている。2017年度では、「A. 大学のプログラム／推薦により留学した」、「C. 個人留学した（語学学習以外）」、「D. 海外でインターンシップに参加した」の割合が他の学年よりも高くなっている。

また、2015年度（4年制で1年次に相当）では、全体的に割合が低い。2018年度（4年制で4年次に相当）では、「G. 海外での研究・調査等や国際会議等に参加した」の割合が他の学年よりも高くなっている。

Ⅲ-4. 留学の障害

- ・「語学力の問題」、「経済的な問題」は3割強、「大学の年間スケジュール」は2割半
- ・「留学をしなかったが積極的に考えたことがある」は4割弱

Q17-SQ2. 在学中に留学しなかった人(上記のAからCの経験がない人)にお聞きします。

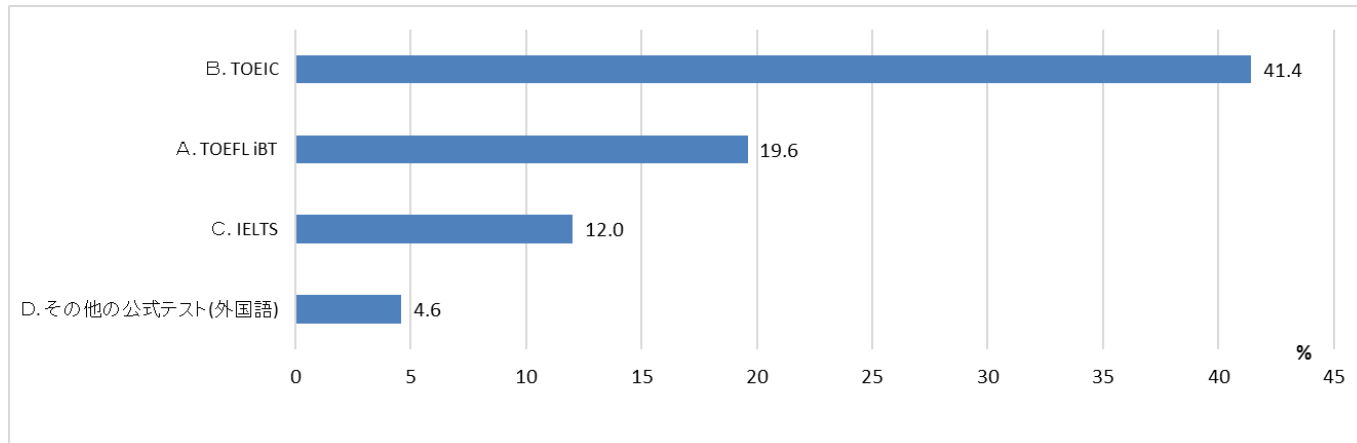


留学の障害について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「B. 語学力の問題で留学をあきらめた」(32.6%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 経済的な問題で留学をあきらめた」(31.7%)、「E. 大学の年間スケジュールのため、留学をあきらめた」(26.2%)となっている。一方で、「A. 積極的に留学をしたいと考えたことがある」(39.2%)となっており、結果的に留学をしなかったが、考えたことがあるものは、4割弱となっている。

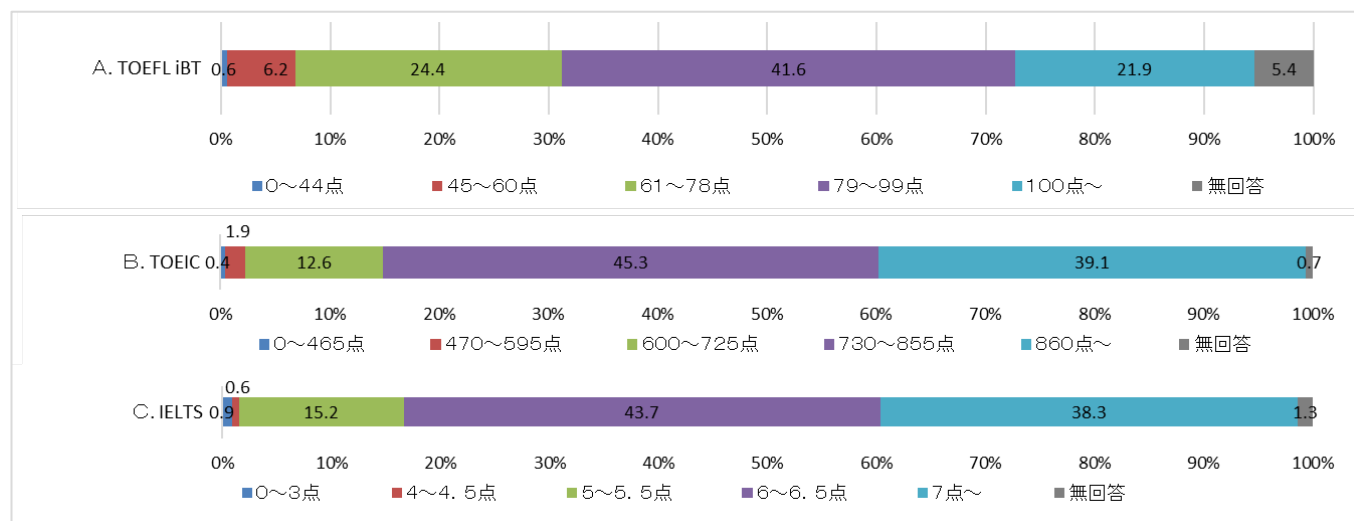
Ⅲ-5. 外国語テスト

- ・「TOEFL iBT受験者」は2割弱、「TOEIC受験者」4割強、「IELTS受験者」は1割強
- ・TOEFL iBTは「79～99点」、TOEICは「730-855点」、IELTSは「6～6.5点」が最も高い割合

Q18. あなたは、在学中にTOEFL iBTやTOEIC、IELTS等の公式テストを受験したことがありますか



TOEFL iBTの受験者は19.6%、TOEIC受験者は41.4%、IELTS受験者は12.0%、その他の公式テストは4.6%となっている。



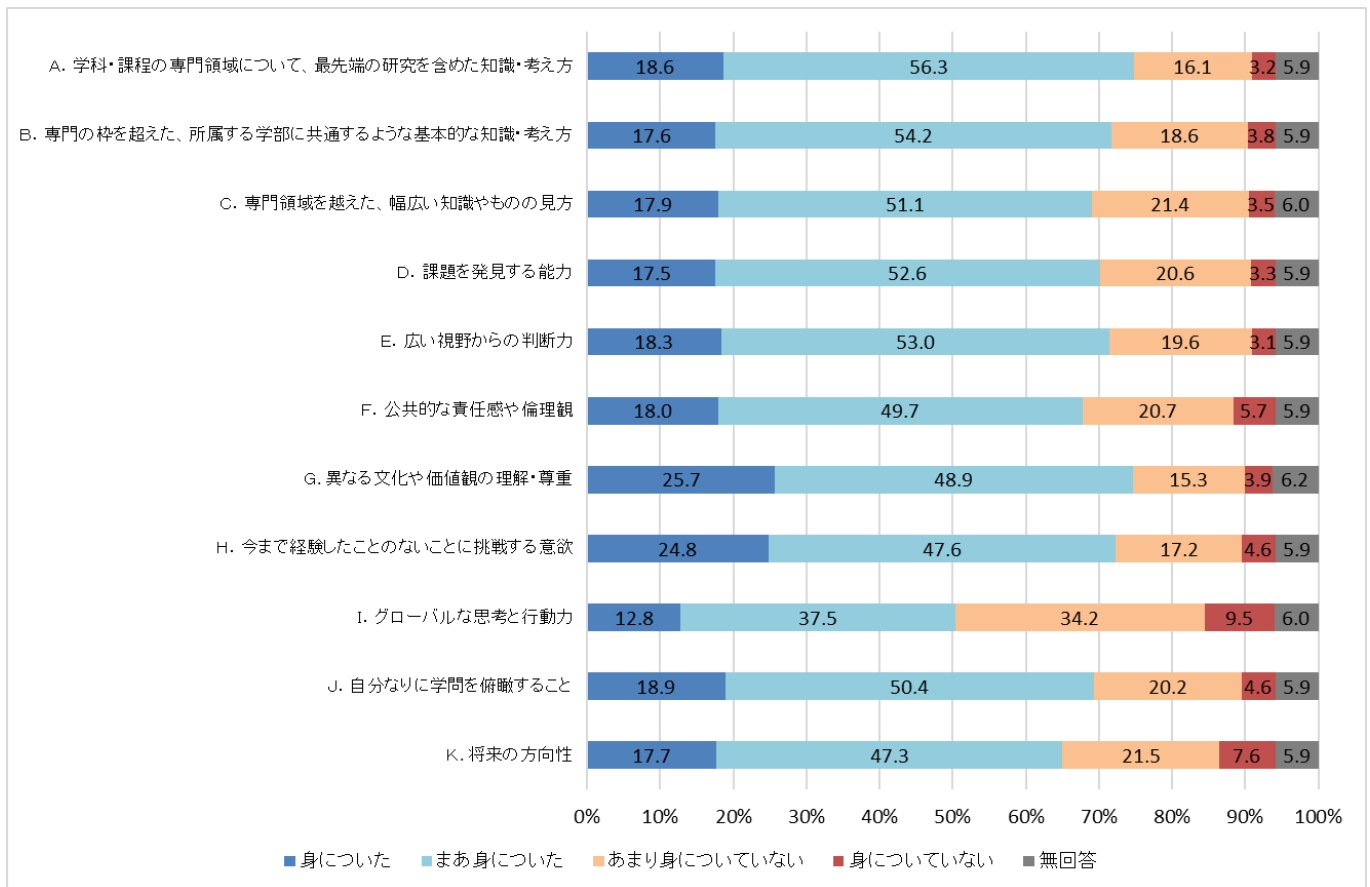
それぞれの得点の分布は、満点が異なるため、割合で示すと、TOEFL iBTは「79～99点」(41.6%)、TOEICは、「730～855点」(45.3%)、IELTSは「6～6.5点」(43.7%)が最も高い割合となっている。

IV. 在学時の学習

IV-1. 身につけた点

- ・「最先端の知識・考え方」は7割半
- ・「異なる文化や価値観の理解・尊重」は7割半
- ・「挑戦する意欲」は7割強

Q19. あなたは、つぎのような点を身につけたと思いますか。

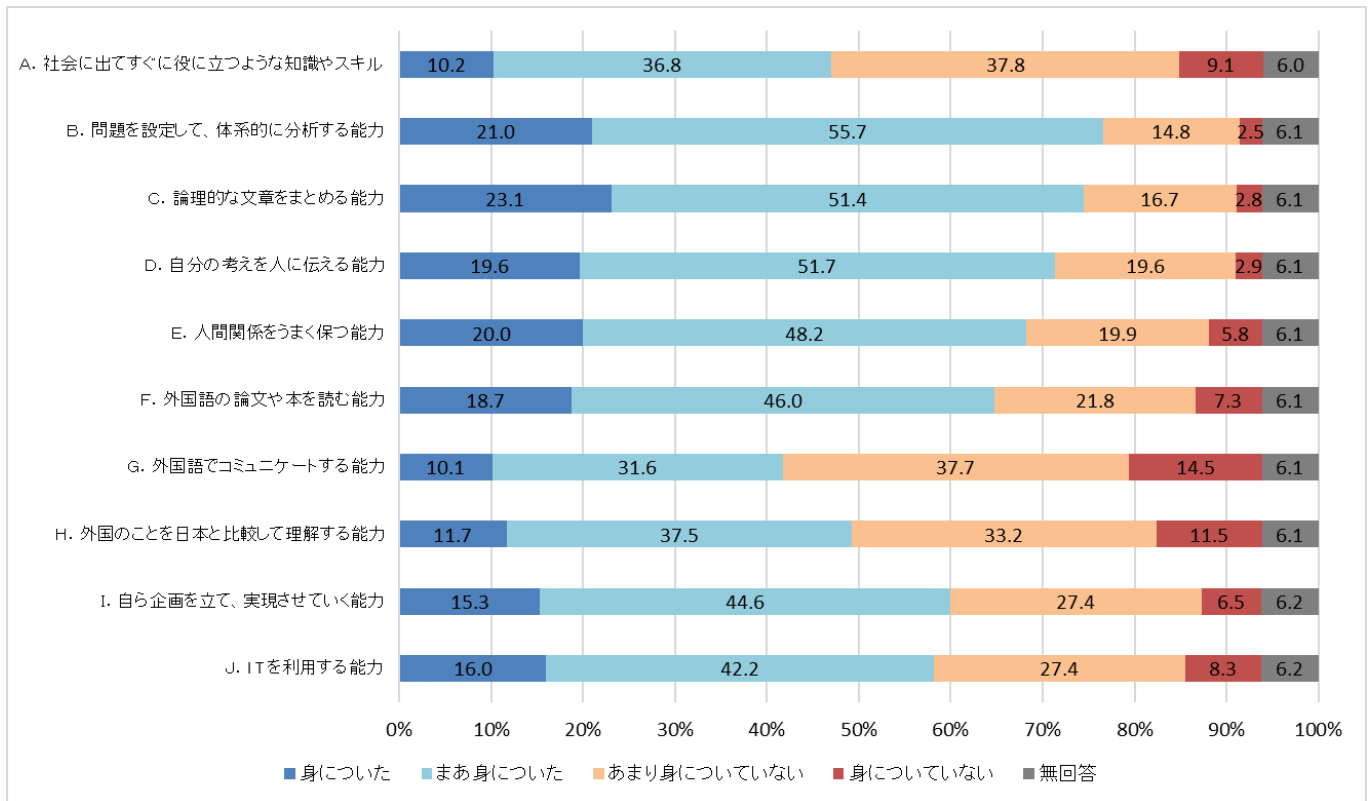


在学時の学習で身につけた点について、「身についた」と「まあ身についた」の合計が、「A. 学科・課程の専門領域について、最先端の研究を含めた知識・考え方」(74.9%)が最も高い割合となっている。次いで「G. 異なる文化や価値観の理解・尊重」(74.6%)、「H. 今まで経験したことのないことに挑戦する意欲」(72.4%)となっている。

IV-2. 身につけたスキル・能力

- ・「問題を設定して、体系的に分析する能力」は7割半
- ・「論理的な文章をまとめる能力」は7割半
- ・「自分の考えを人に伝える能力」7割強

Q20. あなたは、つぎのようなスキルや能力を身につけたと思いますか。

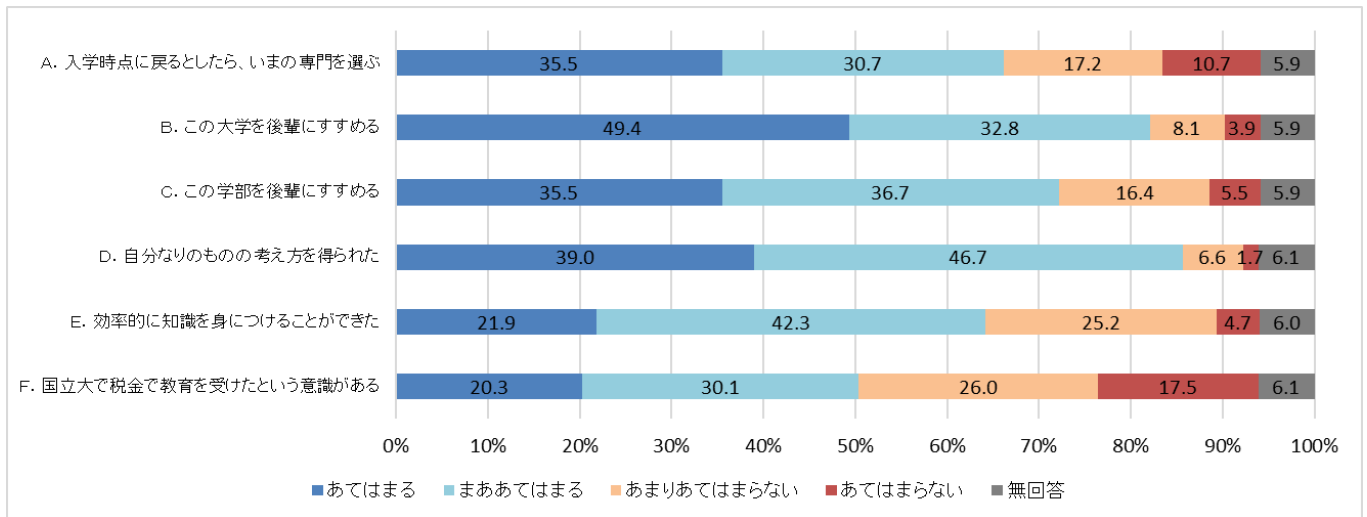


在学時の学習で身につけたスキル・能力について、「身についた」と「まあ身についた」の合計が、「B. 問題を設定して、体系的に分析する能力」(76.7%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 論理的な文章をまとめる能力」(74.5%)、「D. 自分の考えを人に伝える能力」(71.3%)となっている。

IV-3. 大学時代を通じての経験

- ・「自分なりのものの考え方を得られた」は8割半
- ・「この大学を後輩にすすめる」は8割強
- ・「この学部を後輩にすすめる」は7割強

Q21. 大学時代を通じての経験を総合して、つぎのようなことはどの程度あてはまりますか。

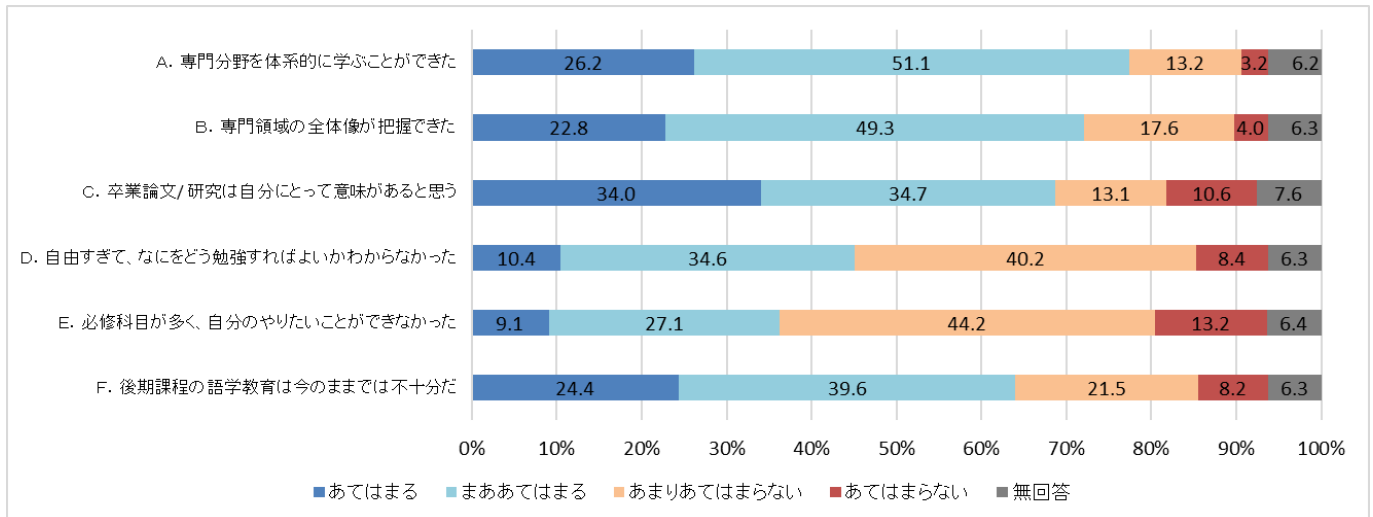


大学時代の経験について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「D. 自分なりのものの考え方を得られた」(85.7%)が最も高い割合となっている。次いで「B. この大学を後輩にすすめる」(82.2%)、「C. この学部を後輩にすすめる」(72.2%)となっている。

IV-4. 大学のカリキュラム

- ・「専門分野の学びに肯定的な回答」が7割半
- ・「後期課程の語学教育へ肯定的ではない回答」が6割半

Q22. 大学のカリキュラムについてお聞きします。



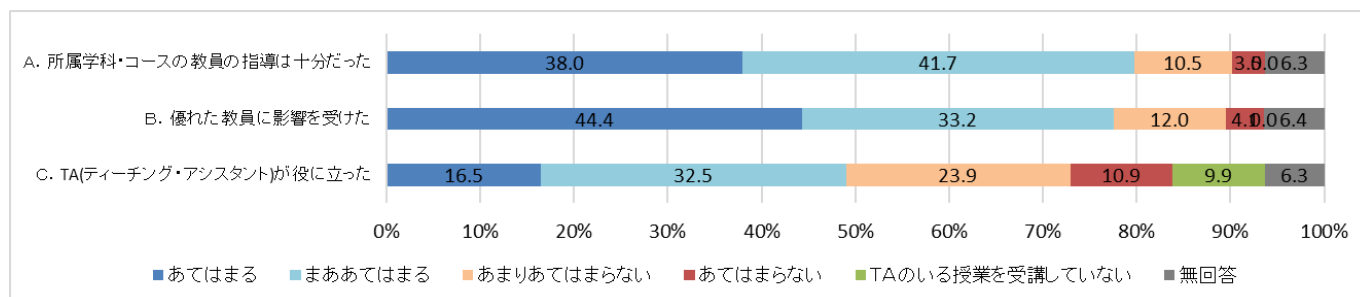
カリキュラムの肯定的な項目について、「とても満足」と「まあ満足」の合計が、「A. 専門分野を体系的に学ぶことができた」(77.3%) が最も高い割合となっている。次いで「B. 専門領域の全体像が把握できた」(72.1%)、「C. 卒業論文/研究は自分にとって意味があると思う」(68.7%)となっている。

一方で、カリキュラムの肯定的ではない項目について、「F. 後期課程の語学教育は今のままでは不十分だ」(64.0%) が最も高い割合となっている。次いで「D. 自由すぎて、なにをどう勉強すればよいかわからなかった」(45.0%)、「E. 必修科目が多く、自分のやりたいことができなかった」(36.2%)となっている。

IV-5. 教員や教育制度

- ・「教員の指導は十分」は 8 割弱
- ・「優れた教員に影響を受けた」は 7 割半
- ・「TAが役立った」は 5 割弱

Q23. 教員や教育制度との関係についてお聞きします。



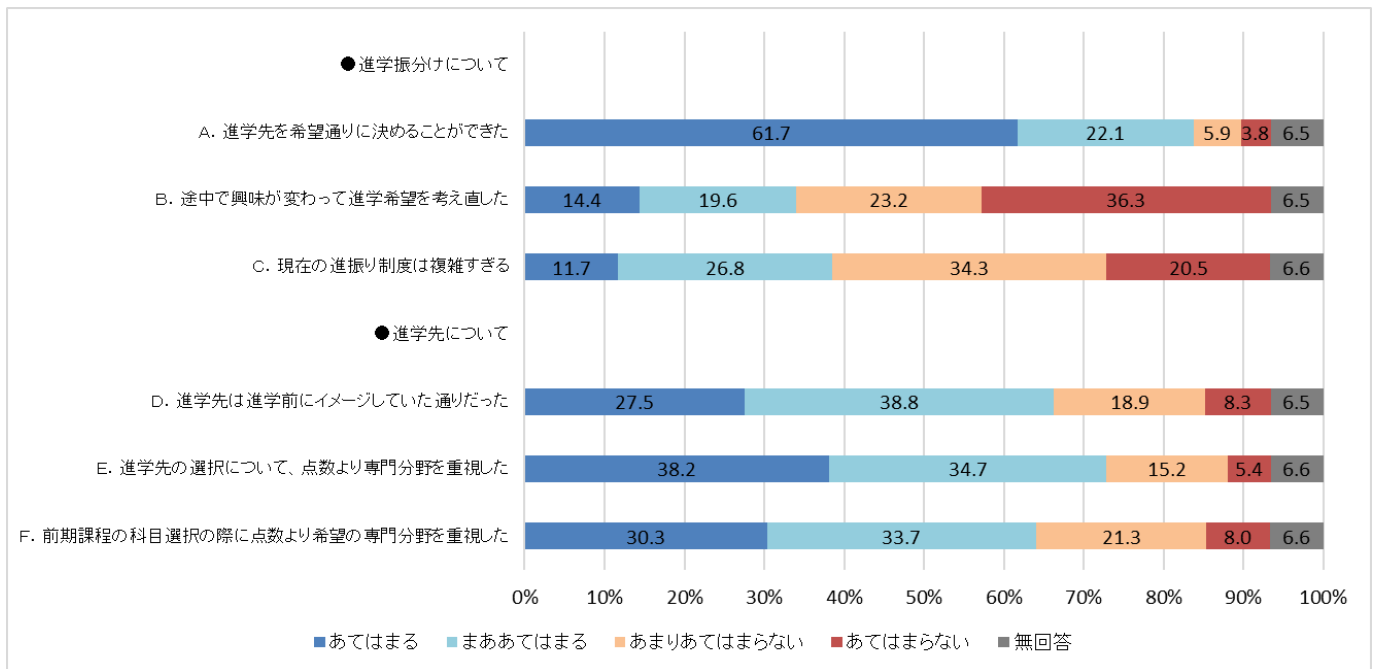
教員や教育制度について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「A. 所属学科・コースの教員の指導は十分だった」(79.7%)は8割弱、「B. 優れた教員に影響を受けた」(77.6%)は、7割半となっている。「C. TA (ティーチング・アシスタント) が役に立った」(49.0%)は5割弱となっている。

V. 前期と後期の接続

V-1. 進学振分け・進学先

- ・「進学先は希望通り」は 8 割半弱
- ・「進学先は点数よりも専門分野を重視して選択」は 7 割半弱
- ・「進学先はイメージ通り」は 6 割半強

Q24. 進学振分けや進学先についてお聞きします。

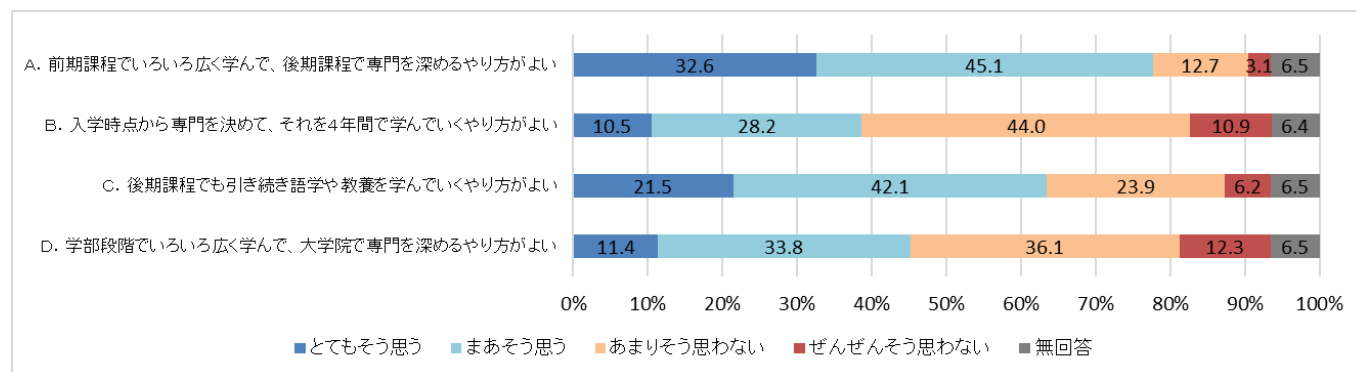


進学振分けや進学先について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「A. 進学先を希望通りに決めることができた」(83.8%)が最も高い割合となっている。次いで「E. 進学先の選択について、点数より専門分野を重視した」(72.9%)、「D. 進学先は進学前にイメージしていた通りだった」(66.3%)となっている。

V-2. 専門と教養

- ・「前期課程は教養、後期課程は専門」は 8 割弱
- ・「後期課程でも教養」は 6 割半弱

Q25. 専門と教養の学習の仕方についていくつかの考え方があります。あなたはどのように考えていますか。

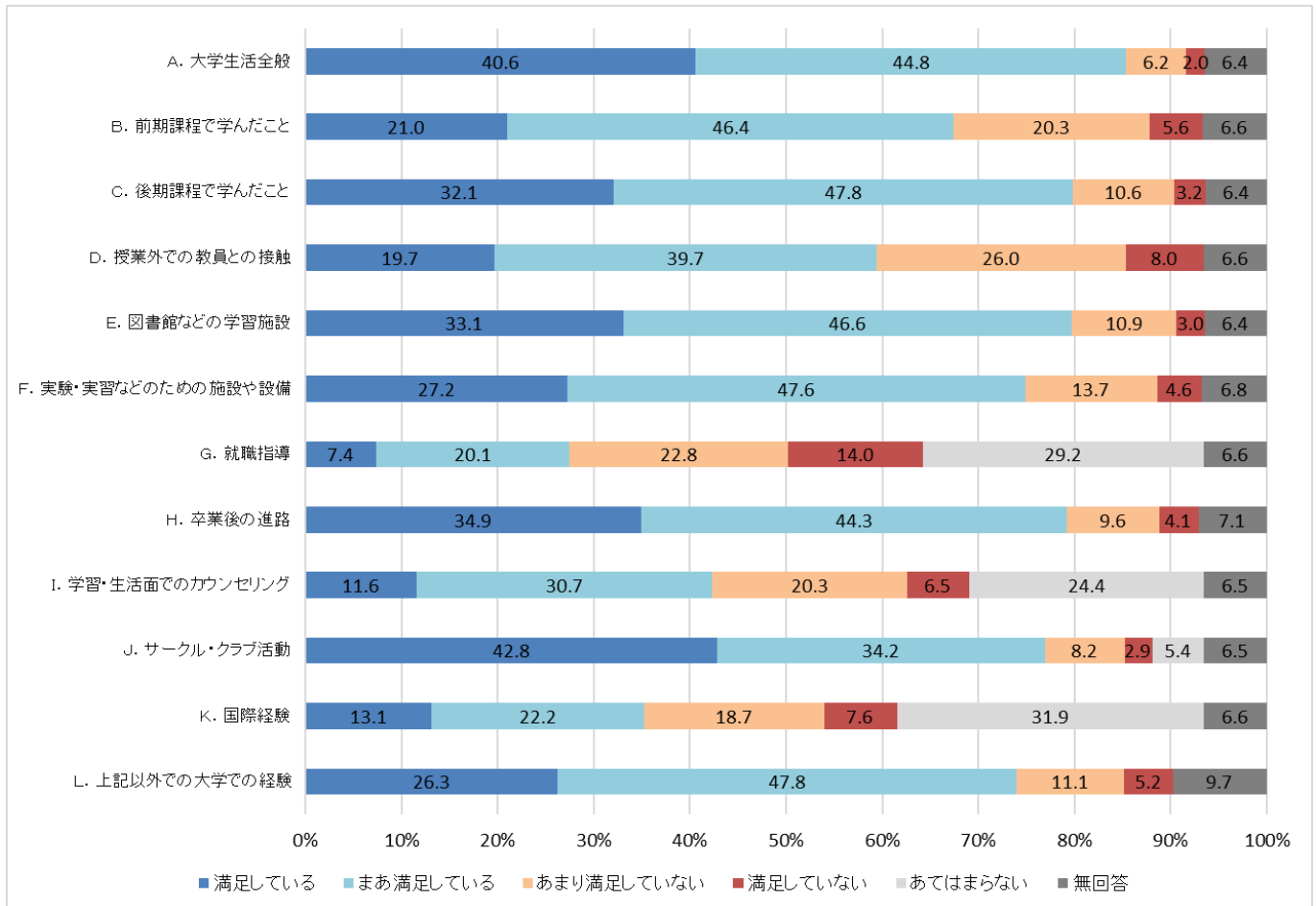


専門と教養の学習の仕方について、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「A. 前期課程でいろいろ広く学んで、後期課程で専門を深めるやり方がよい」(77.7%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 後期課程でも引き続き語学や教養を学んでいくやり方がよい」(63.6%)、「D. 学部段階でいろいろ広く学んで、大学院で専門を深めるやり方がよい」(45.2%)となっている。

V-3. 満足度

- ・「大学生活全般」は8割半
- ・「後期課程での学び」、「図書館などの学習施設」、「卒業後の進路」は8割弱

Q26. あなたの大学生生活を通じた満足度についてお聞きします。

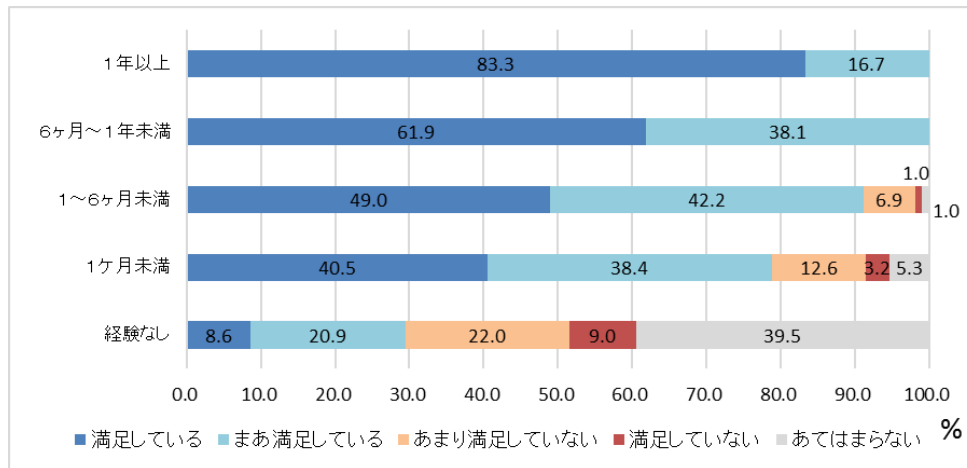


大学生活の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」の合計が、「A. 大学生活全般」(85.4%)が最も高い割合となっている。次いで「C. 後期課程で学んだこと」(79.9%)、「E. 図書館などの学習施設」(79.7%)、「H. 卒業後の進路」(79.2%)の順となっている。

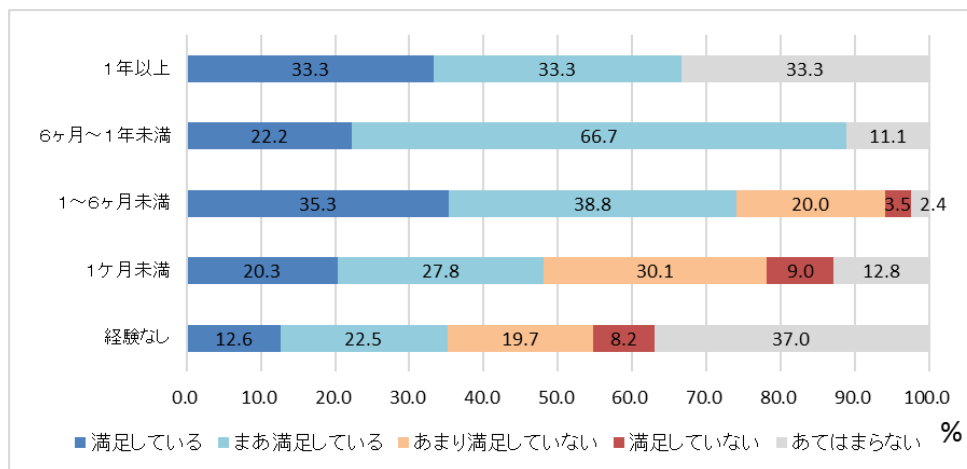
V-4. 満足度（留学経験者）

・ 留学経験者の「国際経験」の満足度は高い

Q17A. 「大学のプログラム/推薦により留学した」別Q26K. 国際経験満足度



Q17B. 「個人プログラムにより留学した（語学学習）」別Q26K. 国際経験満足度



上の図は、「Q17A. 大学のプログラム/推薦により留学した」と「Q26K. 国際経験」の満足度との関連を示したものである。国際経験のない者では、満足度（「満足している」（8.6%）と「まあ満足している」（20.9%）を合わせて）は29.5%と著しく低く、これに対して、「国際経験」のある者では、「1ヶ月未満」の経験期間の者の満足度が最も低いが、それでも8割弱（78.9%）となっている。「1～6ヶ月未満」の経験期間の者の満足度が9割強、それ以上の期間の国際経験のある者では、10割となっている。このように、国際経験がある者の満足度が高く、留学経験の長い者ほど満足度が高い。

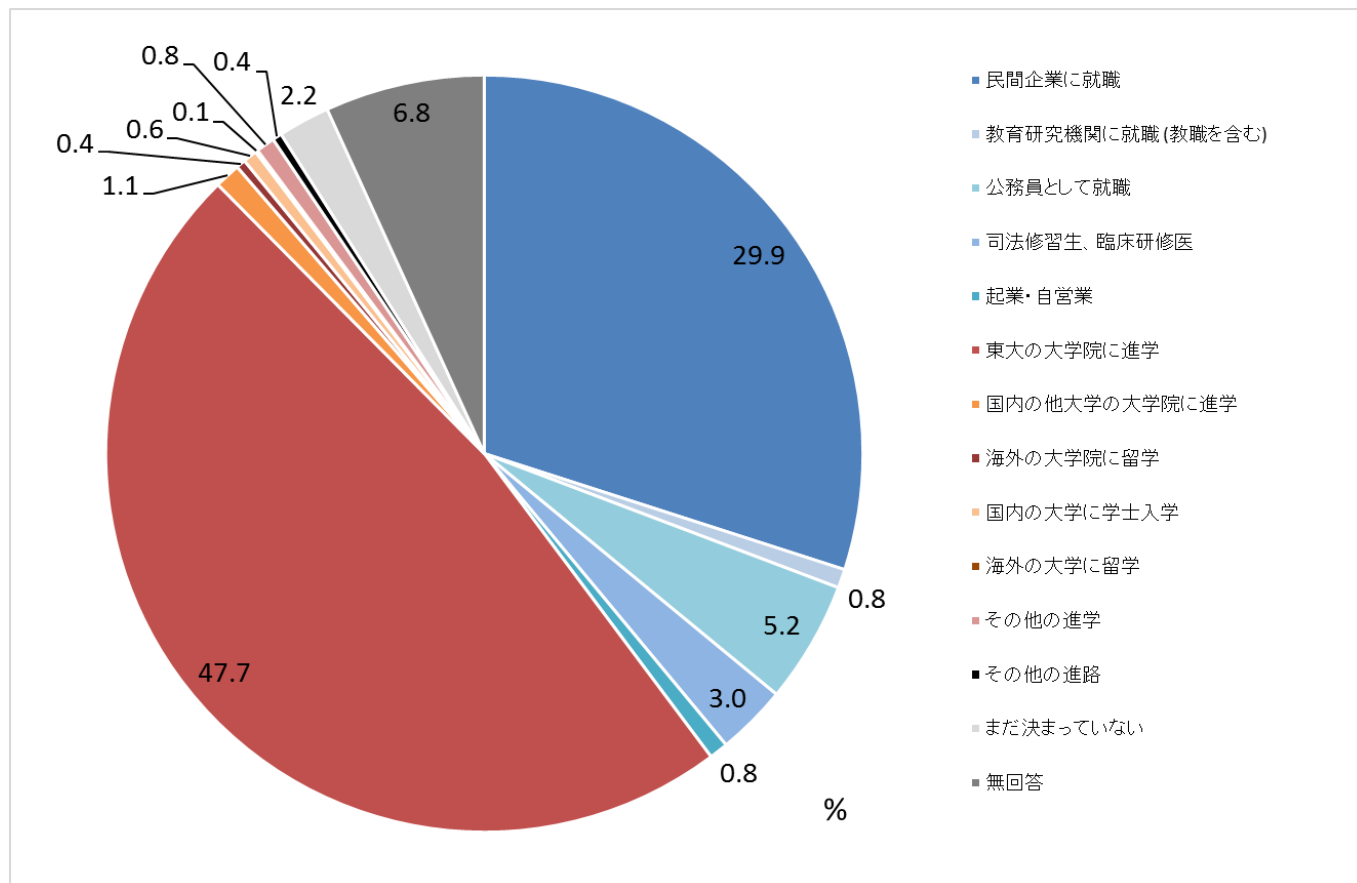
一方、下の図は、同じように、「Q17B. 個人留学した（語学学習）」と「Q26K. 国際経験」の満足度との関連を示したものである。「Q17A. 大学のプログラム/推薦により留学した」と同様に、個人留学の国際経験のない者では、満足度は3割半と低く、国際経験のある者の方が満足度は高い。しかし、全体的に満足度は「Q17A. 大学のプログラム/推薦により留学した」より低くなっている。

VI. 卒業後の進路

VI-1. 卒業後の予定

- ・「進学」は5割
- ・「就職」は4割（うち「民間企業」は3割）

Q27. 4月からの予定は、下の項目ではどれにあたりますか。

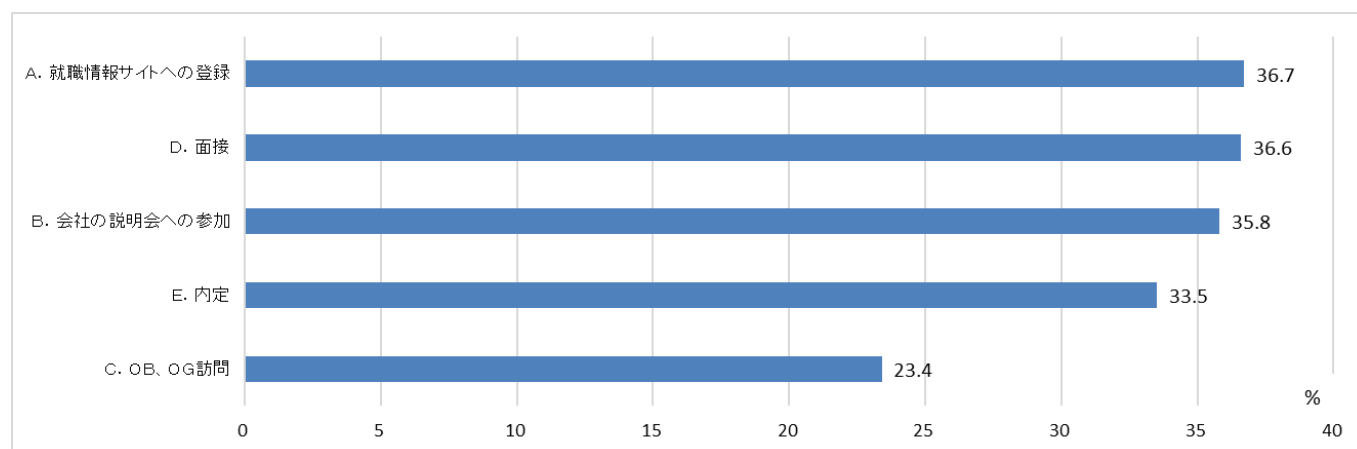


卒業後の予定について、「東大の大学院に進学」(47.7%)、「国内の他大学の大学院に進学」(1.1%)、「海外の大学院に留学」(0.4%)と合わせて、大学院進学予定は、49.2%となっている。さらに、「国内の大学に学士入学」(0.6%)と「海外の大学に留学」(0.1%)と「その他の進学」(0.8%)を合わせて進学は5割(50.7%)となっている。

これに対して、「民間企業に就職」(29.9%)、「公務員として就職」(5.2%)、「司法修習生、臨床研修医」(3.0%)、「教育研究機関に就職」(0.8%)、「起業・自営業」(0.8%)と合わせて就職予定は、4割(39.7%)となっている。

VI-2. 就職活動の経験

Q27-SQ. 民間企業への就職活動を行った人のみお答えください。あなたはつぎのような就職活動を経験しましたか。

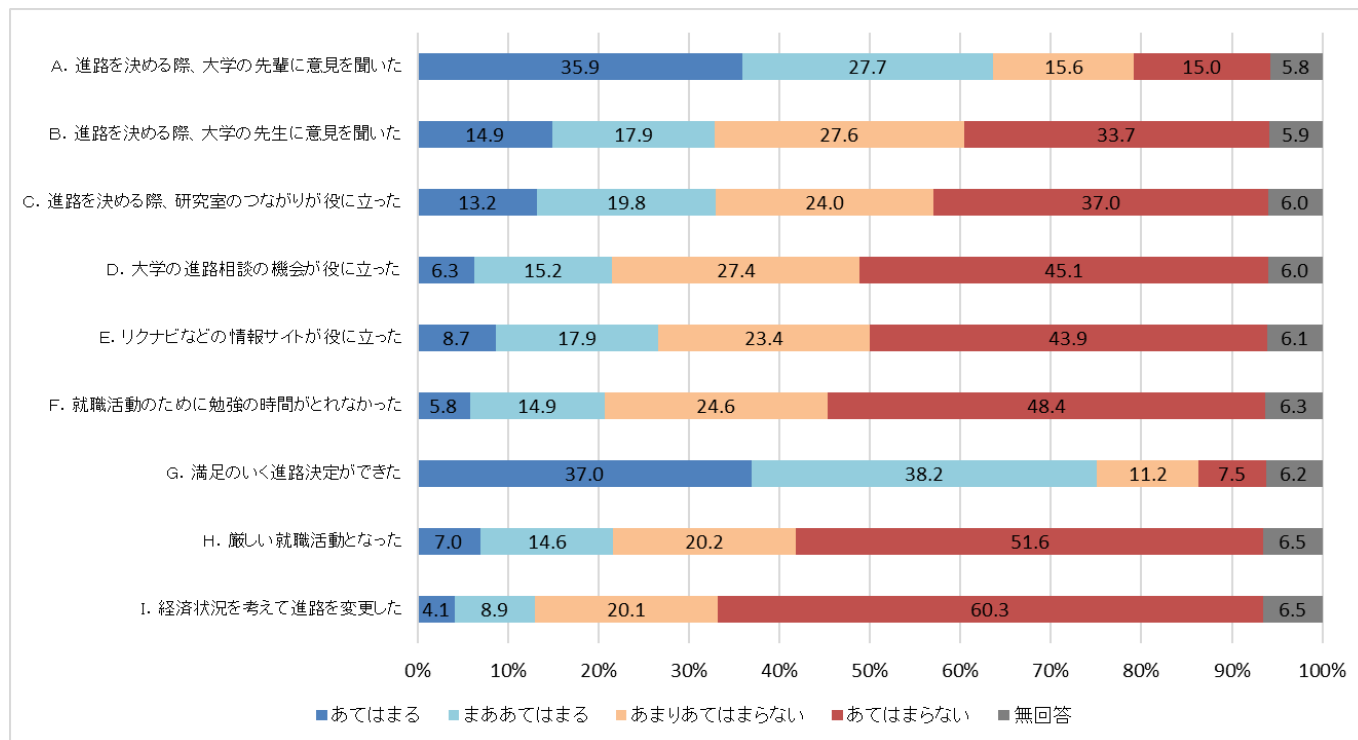


民間企業への就職活動経験については、「A. 就職情報サイトへの登録」(36.3%)の回答が最も高い割合となっている。次いで「D. 面接」(36.6%)、「B. 会社の説明会への参加」(35.8%)となっている。

VI-3. 卒業後の進路と決定プロセス

- ・ 進路決定プロセス：「大学の先輩の意見」は6割半
- ・ 進路の状況：「満足のいく進路決定ができた」は7割半

Q28. あなたの卒業後の進路と決定プロセスについてお聞きします。つぎのようなことは、どの程度あてはまりますか。



進路決定プロセスについて、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「A. 大学の先輩に意見を聞いた」(63.6%)が最も高い割合となっている。

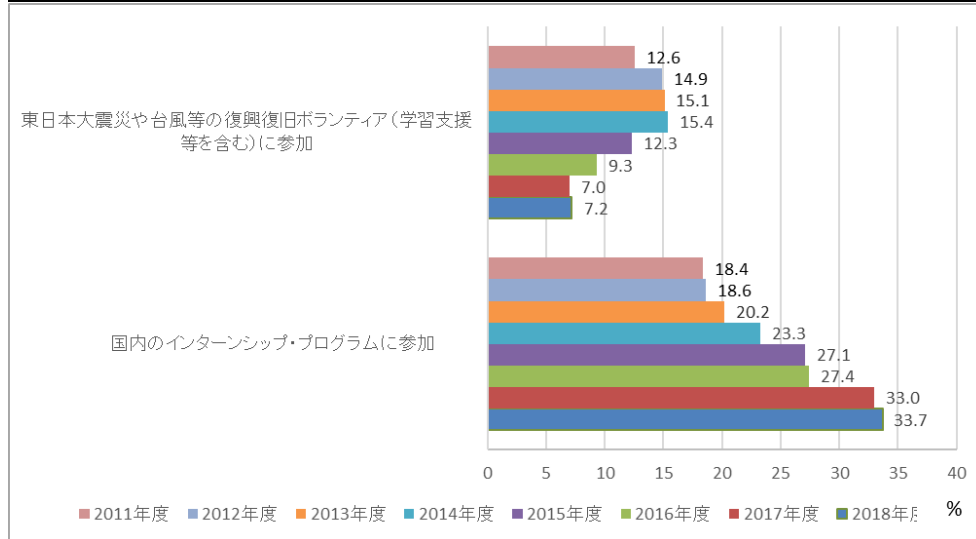
また、進路の状況については、「あてはまる」と「まああてはまる」の合計が、「G. 満足のいく進路決定ができた」(75.2%)が最も高い割合となっている。

(参考) 経年変化

2008年度(2009年3月実施)から11回目となる今回までの調査結果に増加あるいは減少傾向がみられる項目について経年データを示す。

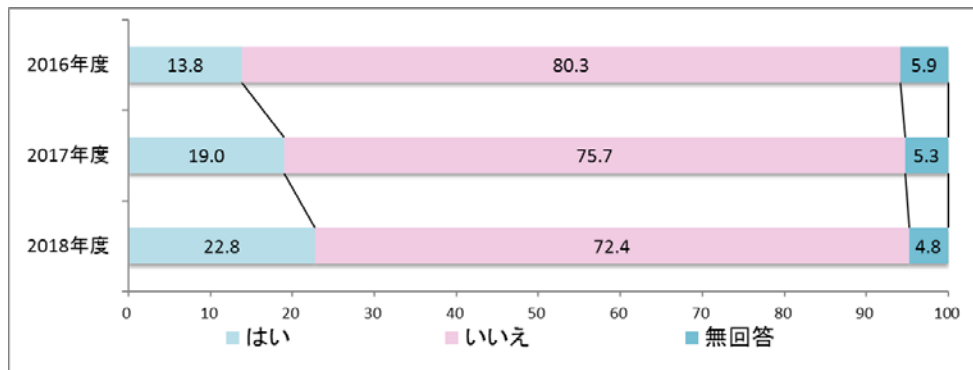
Q12. 国内の在学時の学習機会・経験についてお聞きます。

東日本大震災や台風等の復興復旧ボランティア(学習支援等を含む)/国内のインターシップ・プログラムに参加した

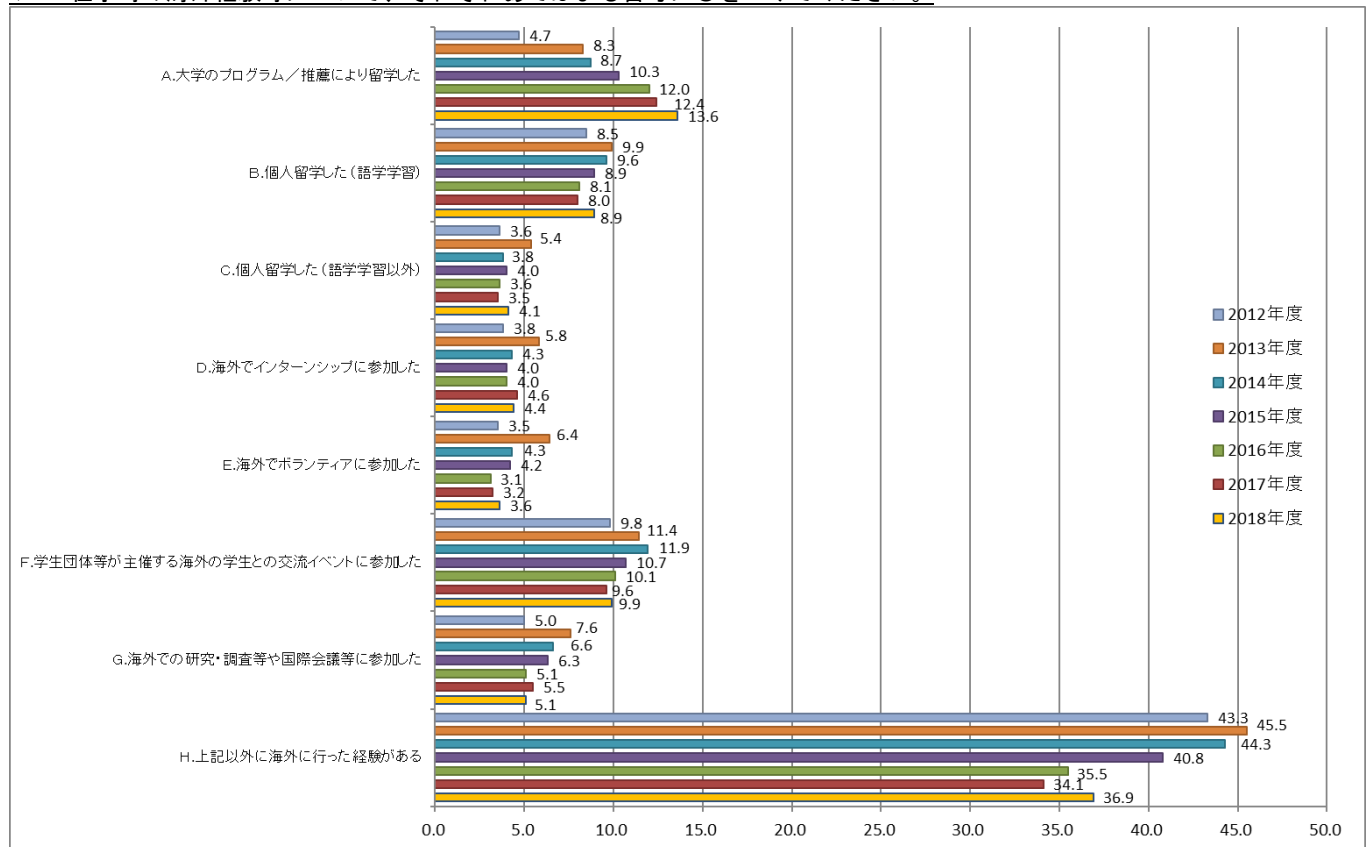


2016年度より質問文の「東日本大震災」を「震災」に変更した

Q15. 他学部聴講について 後期教養教育課目の聴講をしたことがある。

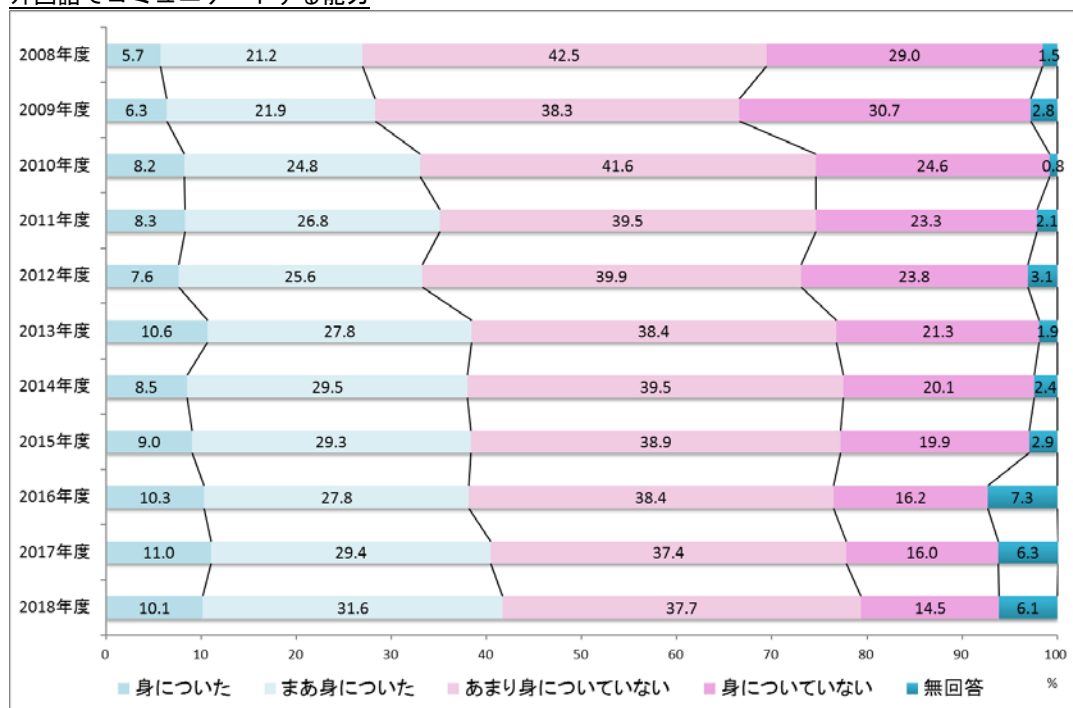


Q17. 在学時の海外経験等について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。



「F. 学生団体等が主催する海外の学生との交流イベントに参加した」は、2016年度より「大学や学生団体等が主催する海外の学生との交流イベントに参加した」に微修正した

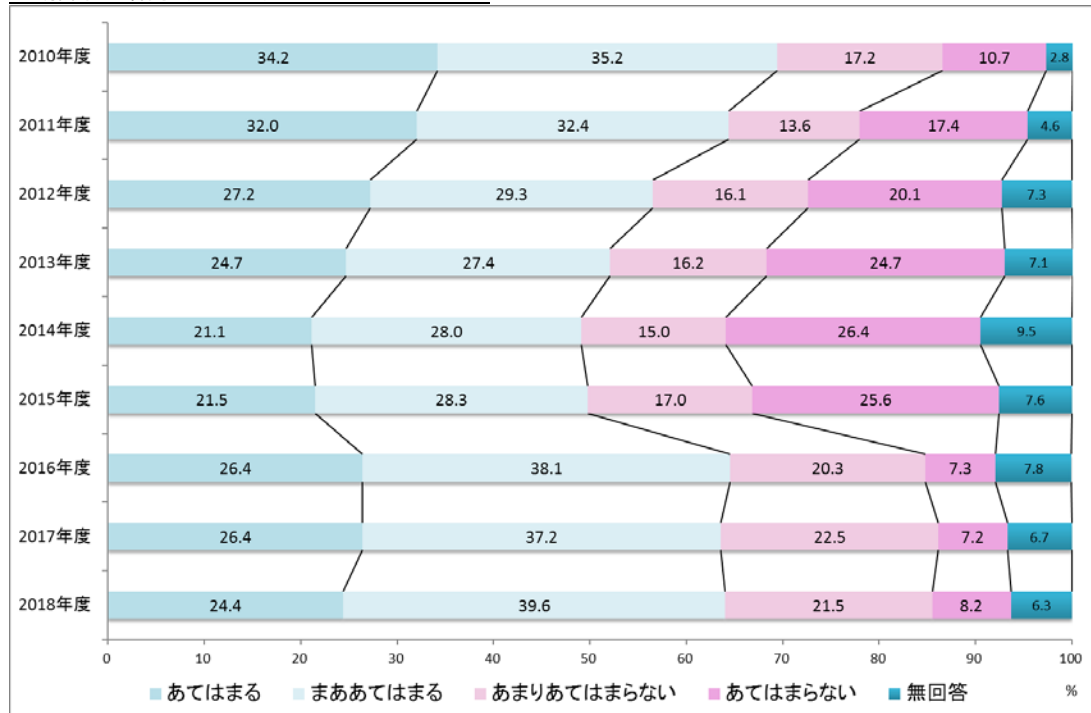
Q20. あなたは、つぎのようなスキルや能力を身につけたと思いますか。
外国語でコミュニケーションする能力



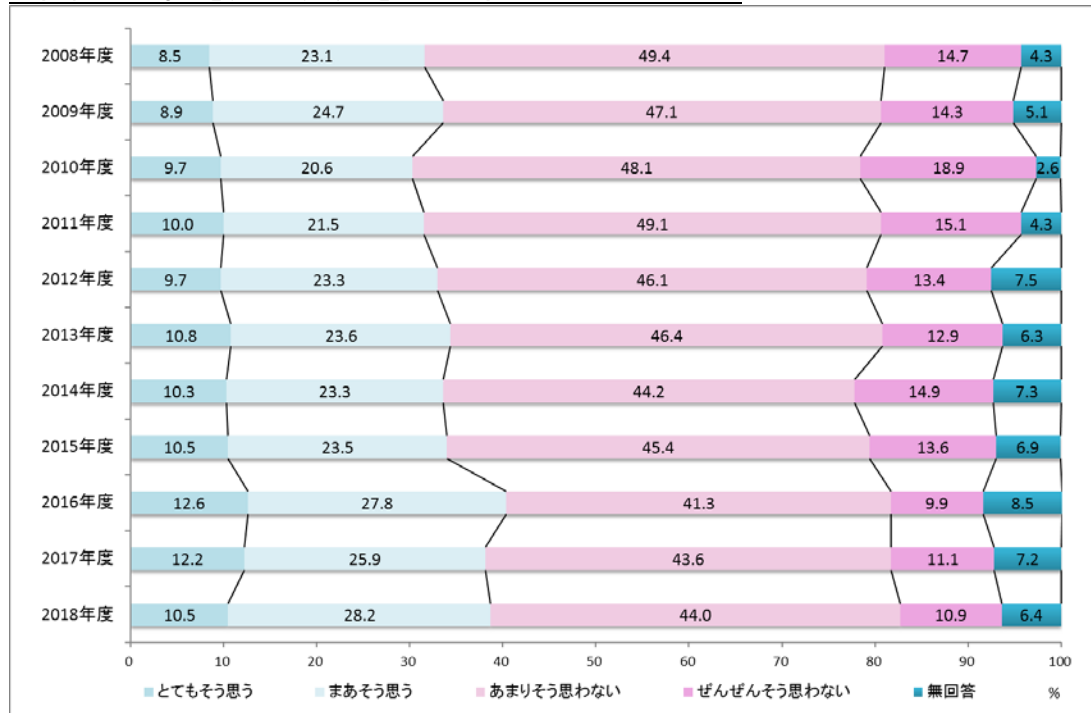
Q21. 自分なりのものの考え方を得られた



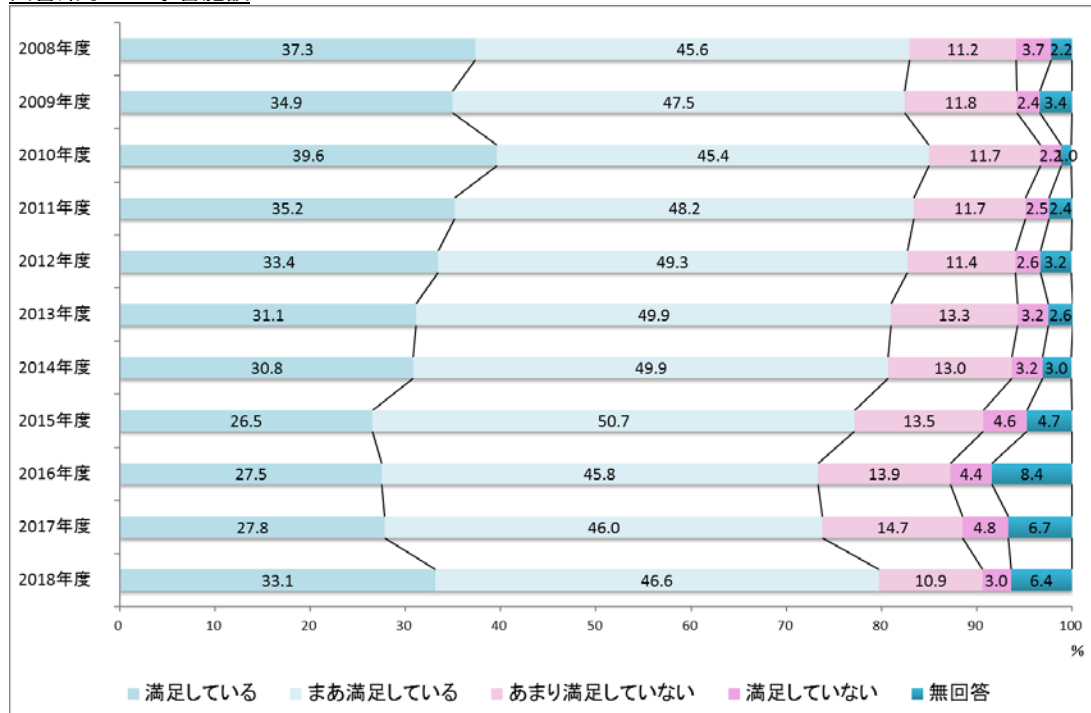
Q22. 大学のカリキュラムについてお聞きます。
後期課程の語学教育は今のままでは不十分だ



Q25. 専門と教養の学習の仕方についていくつかの考え方があります。あなたはどのように考えていますか。
入学時点から専門を決めて、それを4年間で学んでいくやり方がよい



Q26. あなたの大学生生活を通じた満足度についてお聞きします。
図書館などの学習施設



Q28. あなたの卒業後の進路と決定プロセスについてお聞きます。
 経済状況を考えて進路を変更した



大学教育の達成度調査(2009年度-2018年度) 回収率 2019年6月1日現在

	2009年度			2010年度			2011年度			2012年度			2013年度		
	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率
法学部	398	156	39.2%	398	32	8.0%	425	407	95.8%	407	395	97.1%	409	387	94.6%
医学部	129	19	14.7%	109	20	18.3%	121	18	14.9%	124	112	90.3%	129	121	93.8%
工学部	897	437	48.7%	943	681	72.2%	978	631	64.5%	950	630	66.3%	966	669	69.3%
文学部	291	263	90.4%	370	265	71.6%	352	272	77.3%	360	303	84.2%	327	294	89.9%
理学部	277	202	72.9%	293	228	77.8%	318	240	75.5%	282	239	84.8%	280	203	72.5%
農学部	272	247	90.8%	267	245	91.8%	279	257	92.1%	266	233	87.6%	272	234	86.0%
経済学部	354	330	93.2%	358	349	97.5%	333	304	91.3%	329	287	87.2%	343	292	85.1%
教養学部 (後期課程)	141	25	17.7%	184	21	11.4%	154	144	93.5%	186	148	79.6%	166	158	95.2%
教育学部	102	29	28.4%	101	20	19.8%	110	105	95.5%	99	96	97.0%	108	99	91.7%
薬学部	78	73	93.6%	78	75	96.2%	91	90	98.9%	86	81	94.2%	84	80	95.2%
合計	2,939	1,781	60.6%	3,101	1,936	62.4%	3,161	2,468	78.1%	3,089	2,524	81.7%	3,084	2,537	82.3%

	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率	卒業者数	回収枚数	回収率
法学部	390	389	99.7%	376	365	97.1%	386	367	95.1%	396	382	96.5%	360	345	95.8%
医学部	126	113	89.7%	131	124	94.7%	136	121	89.0%	119	109	91.6%	132	119	90.2%
工学部	956	610	63.8%	940	639	68.0%	973	658	67.6%	981	760	77.5%	982	844	85.9%
文学部	372	318	85.5%	311	273	87.8%	338	279	82.5%	279	238	85.3%	317	283	89.3%
理学部	301	228	75.7%	292	206	70.5%	307	243	79.2%	301	221	73.4%	267	225	84.3%
農学部	272	241	88.6%	269	243	90.3%	254	219	86.2%	268	213	79.5%	278	236	84.9%
経済学部	357	284	79.6%	319	250	78.4%	345	201	58.3%	323	236	73.1%	314	302	96.2%
教養学部 (後期課程)	175	156	89.1%	171	143	83.6%	169	137	81.1%	192	141	73.4%	187	117	62.6%
教育学部	90	75	83.3%	99	98	99.0%	90	80	88.9%	101	94	93.1%	99	98	99.0%
薬学部	82	80	97.6%	89	86	96.6%	82	65	79.3%	78	69	88.5%	81	63	77.8%
合計	3,121	2,494	79.9%	2,997	2,427	81.0%	3,080	2,370	76.9%	3,038	2,463	81.1%	3,017	2,632	87.2%

※ 各年度の卒業者数は3月卒業者のみ

問い合わせ：教育・学生支援部学務課教育改革推進チーム